

現在の高等学校の教科・科目構成（全学科共通教科等）

教科	科目	標準 単位数	必履修 科目
国語	国語総合	4	○2単位まで減可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理 歴史	世界史A	2	┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ └
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は 「倫理」・「政治・経 済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
	理科	科学と人間生活	
物理基礎		2	
物理		4	
化学基礎		2	
化学		4	
生物基礎		2	
生物		4	
地学基礎		2	
地学		4	
理科課題研究		1	

教科	科目	標準 単位数	必履修 科目
保健 体育	体育	7~8	○ ○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ └ ○ ┌ └ ┌ └ ┌ └ ┌ └ ┌ └
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで減可
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	コミュニケーション英語Ⅱ	4	
	コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	英語表現Ⅰ	2	
	英語表現Ⅱ	4	
	英語会話	2	
家庭	家庭基礎	2	┌ ○ └
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	┌ ○ └
	情報の科学	2	
総合的な学習の時間		3~6	○

特別活動は単位数が設定されていない。ホームルーム活動に年間35単位時間以上、生徒会活動及び学校行事については、学校の実態に応じて、それぞれ適切な授業時数を充てることとされている。

全ての生徒に共通に身に付ける資質・能力「コア」についての基本的考え方

(「初等中等教育分科会高等学校教育部会の審議まとめについて」(平成26年6月中央教育審議会高等学校教育部会)より)

コアの要素を含む資質・能力 (イメージ)

高等学校教育を通じて身に付けるべきもの

確かな学力

ア 基礎的・基本的な知識・技能

説明する力、議論する力

イ 基礎的・基本的な知識・技能
を活用して課題を解決する力
(思考力・判断力・表現力等)

批判的、合理的に考える力

「創造力、構想力」

ウ 主体的に学習に取り組む
意欲・態度

社会・職業への円滑
な移行に必要な力

市民性

「自己理解・自己管理能力」

豊かな心

● 社会の発展に

「職業観・勤労観」

「主体的行動力」

「人間関係形成力」

寄与する態度を養うために

社会的責任を担い得る倫理的能力

必要な「公共心」や「倫理観」

社会の一員として参画し貢献する意識・態度

● 社会奉仕の精神、他者への思いやり

健やかな体

● 健康の保持増進のための実践力

A 筆記試験や実技試験等による客観的な評価の対象としやすいもの

B A以外のもの

学習指導要領等の構造化のイメージ（仮案・調整中）

下記のような構造をイメージしながら、各教科等の意義や教科・科目等の構成、各教科・科目等の内容を見直す必要があるのではないか。その際、教える側の視点だけではなく学習する側の視点にも立ち、学習プロセスの在り方や身に付ける資質・能力等について整理していく必要があるのではないか。

人格の完成を目指す

教科横断的・総合的に育成すべきさまざまな資質・能力

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

主体性・多様性・協働性

個別の知識や技能
(何を知っているか、
何ができるか)

**教科等の本質に根ざした
見方や考え方等**
(知っていること・できることをどう使うか)

**情意、態度等に
関わるもの**
(どのように社会・世界と関わり
よりよい人生を送るか)

教科学習

各教科に固有の知識や
個別のスキル

各教科の本質に根ざした問題解決
の能力、学び方やものの考え方

各教科を通じて育まれる情意、態
度等

総合的な学習

(各学校で設定)

横断的・総合的な問題解決の能力

実社会における横断的・総合的な
問題解決に取り組む態度

特別活動

集団の運営に関する方法や基本的
な生活習慣等

よりよい集団の生活を形成し、自
己を生かす能力

自主的、実践的に自己の役割や責
任を果たす態度等

道徳教育

道徳的価値

道徳的な判断力

道徳性

教科等間の往還
(カリキュラム・マネジメント)

総合的に育成する学習プロセス

全ての生徒に共通に育むべき資質・能力と、各教科の必履修科目の関係等 (仮案・調整中)

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	教科等の本質に根ざした 見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	情意、態度等に 関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)	資質・能力の育成のために 重視すべき学習過程等の例
国語	話すこと・聞くことにおける知識・技能 書くことにおける知識・技能 (読むこと・みること) 国語の特質に関する理解	実社会・実生活に生きる国語の能力	国語を尊重してその向上を図る態度など	【話すこと・聞くこと】 目的理解・課題発見 話題設定 取材 構成 対話 評価 交流 振り返り 音声表現の活用 【書くこと】 目的理解・課題発見 題材設定 取材・表現の工夫 構成 記述 推敲 交流 振り返り 文章表現の活用
	読むことにおける知識・技能 古典を含む日本の言語文化等に関する理解 国語の特質に関する理解	伝統的な言語文化を今に生かし活用できる能力	言語文化に対する関心など	【読むこと】 目的の理解 読書行為の課題設定 選書・情報選択 表現に即した理解 テキストの解釈 考えの形成 交流 振り返り 読書・情報活用
地理	地図や地理情報システムなどの地理的な技能 地球規模の自然システム、社会・経済システムの理解	位置と分布、場所、地域などの空間概念を捉え追究する地理的な見方や考え方	持続可能な社会づくりに向けて、地球的課題や地域的課題の解決を模索する態度など	地理的事象の認識 課題の設定 地図や統計資料を用いた追究や調査 地図化による表現や図表等によるまとめ 振り返り
歴史	日本及び世界の歴史の考察に関わる概念の理解 歴史に関わる諸資料を活用する技能	自国の歴史、グローバルな歴史を横断的・相互的に捉え、諸資料を活用して、歴史に関わる諸課題を考察する力	国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚など	歴史的事象の理解 学習課題の設定 諸資料に基づく調査・考察 まとめ・表現・討論等 振り返り

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	教科等の本質に根ざした 見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	情意、態度等に 関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)	資質・能力の育成のために 重視すべき学習過程等の例
公民	現代社会の諸課題を捉え、 考察し選択・判断していく ために必要な概念的な枠組 み等の理解	国家・社会の形成者として 必要な選択・判断を主体的 に行い、他者と協働しながら 様々な課題を解決してい く力	社会参画への意欲や態度 現代社会に生きる人間とし ての在り方生き方について の自覚など	課題の発見・解決に向けた実践的な学習 (討論、ディベート、模擬投票、模擬裁判 など) 振り返り インターンシップ等の準備と振り返り
数学	数学における基本的な概念 や原理・法則の体系的理解 事象を数理化したり、数学 的に解釈・表現したりする こと	事象を数学的に考察・表現 し、数学的論拠に基づいて 判断し問題を解決したり、 数学的な考え方を発展させ たりする力	数学のよさの認識、数学的 論拠に基づき判断する態度 など	疑問や問いの発生 定式化による問題設定 問題の理解 解決の計画、実行、検討 新たな疑問や問い、推測などの発生
理科	理科における基本的な概念 や原理・法則の体系的理解 探究のために必要な実験・ 観察等の技能	自然の事象を目的意識を 持って観察・実験し、科学 的に探究する力	科学的な自然観など	自然事象の把握 問題の設定 予想・仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の処理 推論 表現
保健体育	体の動かし方や技能、体力 の高め方を理解し、運動の 技能として発揮したり、身 体表現したりすること スポーツに関する科学的知 識や文化的意義等の理解	自己や仲間の運動課題を解 決する過程などを通して、 生涯にわたって、豊かなス ポーツライフを継続できる 資質や能力	公正、協力、責任、参画に 対する意欲及び健康・安全 を確保することで運動の楽 しさや喜びを深く味わうこ とのできる態度	運動観察を通して課題を指摘したり、課題 解決のアイデアを伝え合ったりする活動 個人やグループの課題解決に向けて、合意 形成に貢献する活動 課題解決の過程を踏まえ、目標や課題の設 定と練習方法を選択・実践し見直す活動 ICT、学習カード等の活用による課題や 作戦、戦術等を分析するなど、運動観察や 自己評価、相互評価する活動 競技会や発表会の主体的な企画や運営 など
	個人及び社会生活における 健康・安全についての総合 的な理解	健康の事象を科学的に思 考・判断し、生涯を通じて 自らの健康を適切に管理し 改善していく能力	自他の健康の保持増進のた めにコミュニケーションを 図ったり、主張したりする 態度、健康な社会づくりに 参画する態度など	健康課題の発見 健康情報の収集・分析 課題解決の方法の検討 個人及び社会生活への適用・応用・発信

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	教科等の本質に根ざした 見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	情意、態度等に 関わるもの (どのように社会・世界と関 わりよりよい人生を送るか)	資質・能力の育成のために 重視すべき学習過程等の例
音楽	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽表現の工夫に関すること 工夫したことを歌唱、器楽、創作で表すための技能 表現の活動を通じた、音楽文化についての理解に関すること <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽がもつよさや美しさなどを味わうことに関すること 鑑賞の活動を通じた、音楽文化についての理解に関すること 	<p>【表現の能力】音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもち、それらを生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表す能力</p> <p>【鑑賞の能力】音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを楽しむ能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽への関心・意欲・態度 感性 生涯にわたり音楽を愛好する心情 音楽文化を尊重する態度 音環境への関心 豊かな情操 など 	<p>【表現の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取る 表現のイメージをもつ 音楽表現を試しながら表現意図をもち、表現意図を生かした音楽表現をする <p>【鑑賞の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音色の特徴と表現上の効果とを関わらせて感じ取る 文化的・歴史的背景などを理解する 根拠をもって批評する
美術	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発想や構想することに関すること 創造的に表現するための技能 <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことに関すること 美術文化についての理解に関すること 	<p>【表現の能力】感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な構想を練り、それらをよりよく表現するために必要な技能を身に付け活用し、創意工夫して表現する能力</p> <p>【鑑賞の能力】美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に感じ取り味わう能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美術への関心・意欲・態度 感性 生涯にわたり美術を愛好する心情 美術文化を尊重する態度 豊かな情操 など 	<p>【表現の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主題を生成し、表現形式の特性などを考え、構想を練る 美的直感力や柔軟な思考力、判断力を働かせて発想し、構想を練る 意図に応じて材料や用具の特性を生かして表現する 自己が生成した主題を追求する <p>【鑑賞の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉で考えを整理したり、批評し合い議論したりすることで見方や感じ方を広げる 自己を見つめ、自分の価値意識をもって美術や美術文化を捉える
工芸	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発想や構想することに関すること 創造的に表現するための技能 <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことに関すること 工芸の伝統と文化についての理解に関すること 	<p>【表現の能力】感性や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、よさや美しさなどを考え制作の構想を練り、それらをよりよく制作するために必要な技能を身に付け活用し、創意工夫して表現する能力</p> <p>【鑑賞の能力】工芸や工芸の伝統と文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に感じ取り味わう能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工芸への関心・意欲・態度 感性 生涯にわたり工芸を愛好する心情 工芸の伝統と文化を尊重する態度 豊かな情操 など 	<p>【表現の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の思いや社会的な視点に立ち、美しさや機能性を求め発想し、構想を練る 客観性、柔軟性を備えた観察力や理解力を働かせて発想し、構想を練る 制作方法を理解し、意図に応じて材料や用具を活用したり、手順や技法を吟味し、創意工夫したりして制作する <p>【鑑賞の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉で考えを整理したり、批評し合い議論したりすることで見方や感じ方を広げる 心豊かな生活や社会を創造していくことの意義を理解し、自分の価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化を捉える
書道	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書表現の構想や工夫することに関すること 創造的に表現するための技能 <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことに関すること 書の伝統と文化についての理解に関すること 	<p>【表現の能力】書表現の諸要素を感じ、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想して表現を工夫し、効果的な表現の技能を身に付け表す能力</p> <p>【鑑賞の能力】文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え書のよさや美しさを創造的に味わう能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書への関心・意欲・態度 感性 生涯にわたり書を愛好する心情 書の伝統と文化を尊重する態度 豊かな情操 など 	<p>【表現の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書の古典がもつ表現の諸要素を感じ、自らの意図に基づいて作品を構想し表現を工夫する 創造的な書表現の技能を身に付け、用具・用材の特徴を生かして、効果的に表現する <p>【鑑賞の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 感じたことを確かな言葉で伝え合い、書に対する見方や感じ方を広げる 歴史的背景や生活と社会との関わりから文字や書の伝統と文化への理解を深める

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	教科等の本質に根ざした 見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使う か)	情意、態度等に 関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)	資質・能力の育成のために 重視すべき学習過程等の例
外国語	聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと	日常的な話題から時事問題 や社会問題まで幅広い話題 について、情報や考えなど を的確に理解したり適切に 伝え合ったりする能力	他者を尊重し、聞き手・話 し手・読み手・書き手に配 慮しながら、外国語で積極 的にコミュニケーションを 図ろうとする態度など	聞いたり読んだりしたことに基づいて話し たり書いたりする技能統合型の学習 4 技能を総合的に活用する言語活動（ス ピーチ、プレゼンテーション、ディベート やディスカッションなど）を通じた学習 多様な言語使用場面における学習 実社会や実生活の中で、自ら課題を発見し、 主体的・協働的に探究し、外国語で考えや 気持ちなどを互いに伝え合うことを目的と した学習
家庭	自立した生活に必要な知識 や技術	自立した生活者として生活 上の課題を解決する実践力	家庭や地域の生活を見つめ、 主体的に課題を発見し、工 夫改善充実しようとする態 度など	生活の課題発見 解決方法の検討と計画 実習、観察・実験、調査・研究 実践活動の評価 家庭・地域での実践
情報	情報や情報技術に関する科 学的な理解 情報技術や情報機器を用い て問題を発見し解決する知 識と技能	情報に関する科学的な見方 や考え方を身に付け、情報 技術を効果的に活用して問 題を発見し解決する力	情報社会に主体的に参画し その発展に寄与する態度な ど	ネットワークを用いた情報の収集・発信 問題解決の実践と評価 プログラミングを用いた問題解決 データベースを用いた問題解決 情報社会の課題についての調査や討議 情報モラルの理解と実践

高等学校における教科・科目の現状・課題と 今後の在り方について（検討素案）

目 次

保健・体育教育	8
芸術教育	32
音楽	35
美術	38
工芸	41
書道	44
家庭科教育	47
総合的な学習の時間	56
特別活動	74

保健体育

保健体育に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示）目標 標準単位数：体育 男子 9単位、女子 7単位 保健 2単位

運動の合理的実践を通して、心身の調和的な発達を促すとともに、個人および集団の生活における健康や運動についての理解を深め、これらに関する問題を自主的に解決する能力や態度を養い、国民生活を健全にし、豊かにしようとする意欲を高める。

昭和45年改訂（告示）目標 標準単位数：体育 7～9単位 保健 2単位

健康や体力についての理解と合理的な運動の実践を通して、心身の調和的な発達を促すとともに、健康で安全な生活を営む態度を養う。

- 1 心身の健康や運動についての理解を深めるとともに、適切な運動の実践を通して、健康の保持増進と体力の向上を図る。
- 2 生活における健康や運動の意義を理解させ、健康で安全な生活を実践する能力や態度を養い、国民生活を健全にし、豊かにしようとする意欲を高める。

昭和53年改訂（告示）目標 標準単位数：体育 7～9単位 保健 2単位

健康や体力についての理解と運動の合理的な実践を通して、健康の増進と体力の向上を図り、心身の調和的な発達を促すとともに、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。

平成元年改訂（告示）目標 標準単位数：体育 7～9単位 保健 2単位

健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、計画的に運動をする習慣を育てるとともに健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。

平成11年改訂（告示）目標 標準単位数：体育 7～8単位 保健 2単位

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

平成21年改訂（告示）目標 標準単位数：体育 7～8単位 保健 2単位

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

科目「体育」に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和53年度改訂（告示）

領域	第1学年	第2学年	第3学年	内容の取扱い	標準単位数
A体操	必修			必修	体育
B個人的スポーツ	ア～ウから①又は②選択			器械運動,陸上競技,水泳	7～9単位
C集団的スポーツ	ア～オから②選択	ア～オから①又は②選択		バスケ,ハンド,バレー,サッカー,ラグビー	保健 2単位
D格技	アイから①選択(主として男子)			柔道,剣道	
Eダンス	必修(主として女子)			創作ダンスを主とするが,フォークダンスを含めることができる	
F体育理論	必修			総授業時数の5～10%	

平成元年改訂（告示）

領域	各学年次	内容の取扱い	標準単位数
A体操	必修	必修	体育
B器械運動		ア～エから選択	7～9単位
C陸上競技	BCDEFGから③又は④を選択して履修 その際、F又はGのいずれかを含む	ア～ウから選択	保健
D水泳		ア～オから選択	2単位
E球技		ア～ケから②選択	
F武道		アイから選択	
Gダンス		アイから選択	
H体育理論	必修	総授業時数の5～10%	

平成11年改訂（告示）

領域	入学年次	その次の年次	それ以降の年次	内容の取扱い	標準単位数
A体づくり運動	必修	必修	必修	ア,イ必修	体育
B器械運動	B,C,D,E,F及びGから③又は④選択 その際F又はGのいずれかを含む		B,C,D,E,F及びGから②～④選択 その際F又はGのいずれかを含む	ア～エから選択	7～8単位
C陸上競技				ア～ウから選択	保健
D水泳				ア～オから選択	2単位
E球技				ア～ケから②選択	
F武道				ア,イから①選択	
Gダンス		ア～ウから選択			
H体育理論	必修	必修	必修	(1),(2),(3)必修	

平成21年改訂（告示）

領域	入学年次	その次の年次	それ以降の年次	内容の取扱い	標準単位数
A体づくり運動	必修	必修	必修	ア,イ必修(各年次7～10単位時間程度)	体育
B器械運動	B,C,D,Gから①以上選択 ※1	B,C,D,E	B,C,D,E	ア～エから選択	7～8単位
C陸上競技				ア～ウに示す運動から選択	保健
D水泳				ア～オから選択	2単位
E球技				入学年次はア～ウから②選択,その次の年次以降では、ア～ウから選択	
F武道				ア又はイのいずれから選択	
Gダンス	※1		ア～ウから選択		
H体育理論	必修	必修	必修	(1)入学年次,(2)その次の年次,(3)それ以降の年次(各年次6単位時間以上)	10

保健体育教育に関する現状と課題について①

保健体育教育の課題

【体育】

- ・ 運動する子どもとそうでない子どもの二極化
- ・ 子どもの体力の低下傾向が依然深刻
- ・ 運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜び、その基礎となる運動の技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていない例も見られる
- ・ 学習体験のないまま領域を選択しているのではないか

【保健】

- ・ 今後、自らの健康管理に必要な情報を収集して判断し、行動を選択していくことが一層求められることから、生涯にわたって自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成するために、保健の内容の体系化を図ること
- ・ 生活習慣の乱れが小学校低学年にも見られるとの指摘があることから、小学校低学年における健康に関する学習について、学ぶ内容やその開始時期も含めて改善を図ること

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)
平成20年1月

その課題を踏まえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し改善を図る。その際、心と体を一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要であることから、引き続き保健と体育を関連させて指導することとする。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)
平成20年1月

科目「体育」の現状

- ・ 生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化の現状を踏まえ、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにすることを重視
- ・ 運動やスポーツの楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、発達の段階のまとまりを考慮
- ・ 体力の向上を重視し、健康や体力の状況に応じて自ら体力を高める方法を身に付け、地域などの実社会で生かせるように「体づくり運動」の指導を重視
- ・ 基礎的な知識は、意欲、思考力、運動の技能などの源となるものであり、「体育理論」の確実な定着

技能（運動）、態度、知識、思考・判断の内容をバランスよく指導

運動を通して、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを深く味わう

公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保する

知識の理解をもとに運動の技能を身に付け、運動の技能を身に付けることで一層その理解を深める

自己の課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用したり、応用したりする

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成

保健体育の課題

子どもの体力についても、昭和60年頃と比較すると低い状況にあり、運動する子どもとしない子どもの二極化傾向など、課題が見られるとともに、現代的健康課題の多様化・深刻化などへの対応も必要となっている。

＜5年間における具体的方策＞ 基本施策3 健やかな体の育成

【基本的考え方】

- 学校保健，学校給食，食育の充実により，現代的な健康課題等に対応し，子どもの心身の健康の保持増進を図る。さらに，子どもの安全・安心を確保するため，防災教育を含む学校の安全に関する教育を推進する。
- 子どもの体力の向上傾向が維持され，確実なものとなるよう，学校や地域における子どものスポーツ機会の充実を図る。

【主な取組】

3-1 学校保健，学校給食，食育の充実

- ・学校保健に係る教職員の資質・能力の向上及び学校医・学校歯科医・学校薬剤師等の活用促進を図るとともに，体育・保健体育などの教科学習を中核として学校の教育活動全体を通じた体系的な保健教育を充実する。また，学校保健委員会の設置率の向上を目指し，学校，家庭及び地域の医療機関等との連携による保健管理等を推進する。

3-2 学校や地域における子どものスポーツ機会の充実

- ・スポーツ基本計画に基づき，体育・保健体育の授業や運動部活動等の学校の体育に関する活動や地域スポーツを通じて，子どもが十分に体を動かして，スポーツの楽しさや意義・価値を実感できる環境整備を図る。

科目体育の今後の在り方について（検討素案）

科目「体育」の改善の視点(案)

- ・生徒の興味・関心の多様化等の現状を踏まえ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成
- ・体育で学習したことを、実生活や実社会で生かし、運動の日常化・習慣化につなげること
- ・体力の向上を重視した「体づくり運動」の指導を更に充実すること
- ・意欲、思考力、運動の技能の源となる「体育理論」の指導を更に充実すること
- ・指導と評価の一体化に向けた、技能、態度、知識、思考・判断をバランスよく育む指導を更に充実すること
- ・する、みる、支えるスポーツの推進(オリンピック・パラリンピック教材の活用等)

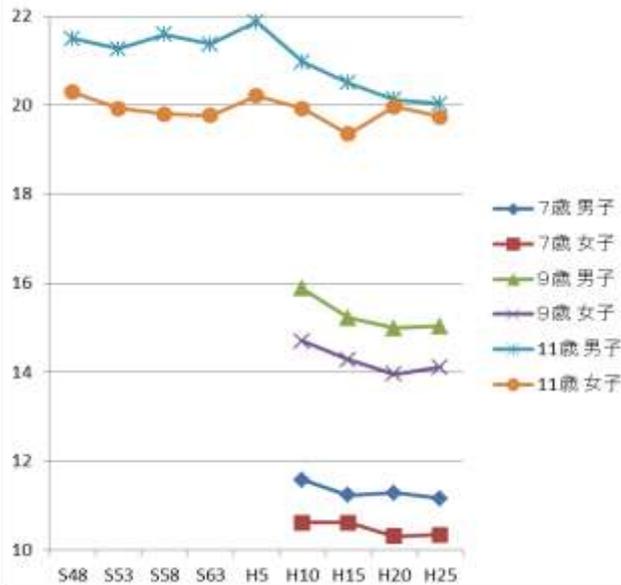
検討の方向性(案)

- 心と体を一体としてとらえ、心身の調和的発達を図ることができる資質や能力の育成
- 「する、みる、支える」などの視点から、自己に適したスポーツとのかかわり方で、卒業後もスポーツと親しむことができる資質や能力の育成
- 自己の体力や生活に応じて自己の課題の見直しを図り、日常的に運動に親しむとともに体力の向上を図ることのできる能力の育成
- 公正、協力、責任、参画などの意欲を高め、健康・安全を確保することができる能力の育成
- 領域の特性に応じて、技能、態度、知識、思考・判断をバランスよく育むための内容の充実
- オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に、運動やスポーツへの関心・意欲等の向上を図るとともに、
スポーツを文化として享受できる内容の充実
- 指導と評価の一体化を充実するための内容及び内容の取扱いの改善
- 実生活、実社会で生かすことを重視し、主体的・協働的に学ぶための内容の取扱い（指導方法）の工夫
- インクルーシブ教育の趣旨を踏まえた内容の取扱い(指導方法)の工夫
- 道徳教育、ICT活用など、科目「体育」の特性を踏まえた内容の取扱い(指導方法)の工夫
- スポーツの推進者を育成するための「専門体育」及び「学校設定科目」等の改善

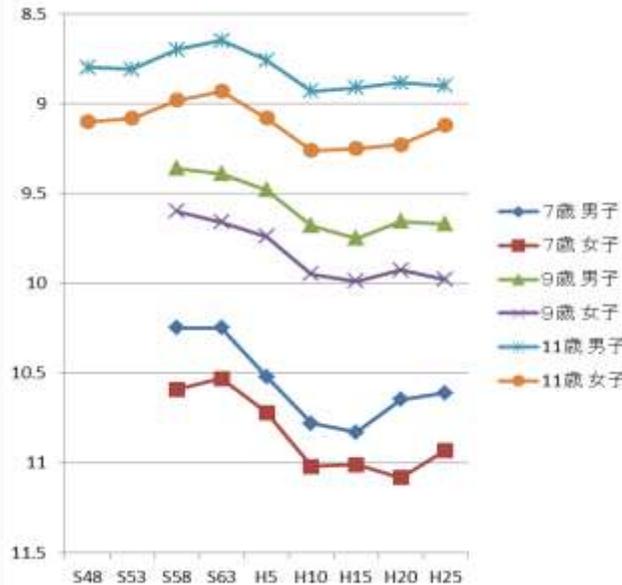
生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成

子供の体力・運動能力の推移 (出典) 文部科学省「平成25年度体力・運動能力調査」

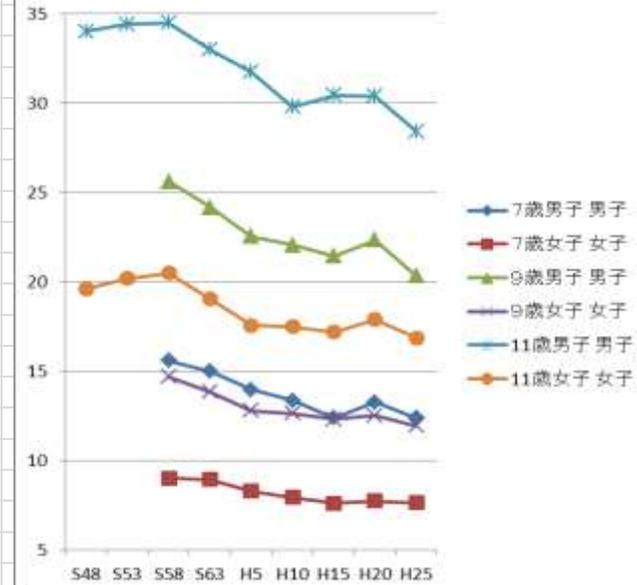
握力(7歳～11歳)



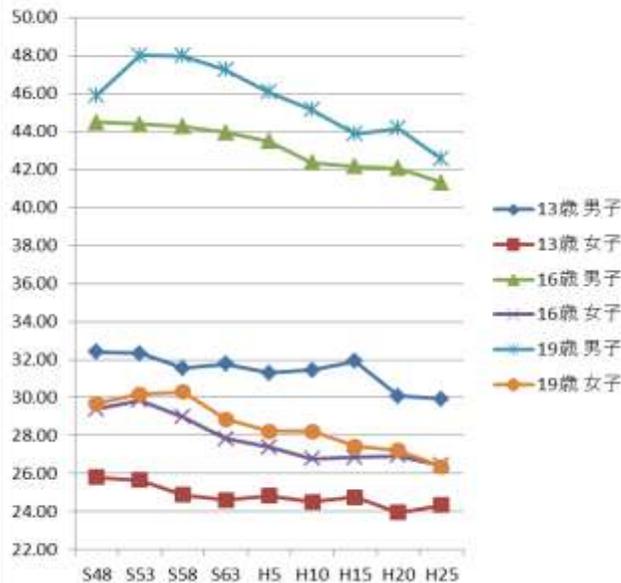
50m走(7歳～11歳)



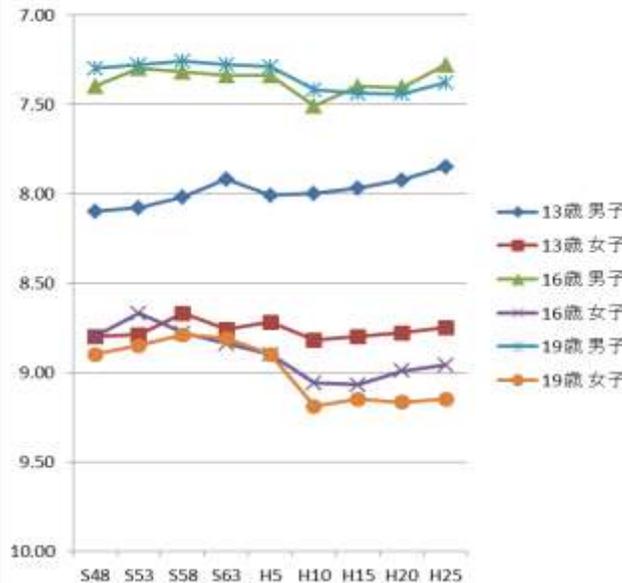
ソフトボール投げ(7歳～11歳)



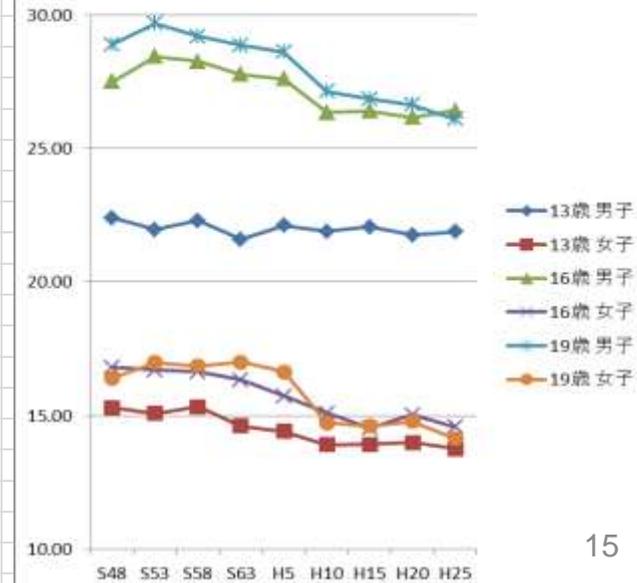
握力(13歳～19歳)



50m走(13歳～19歳)

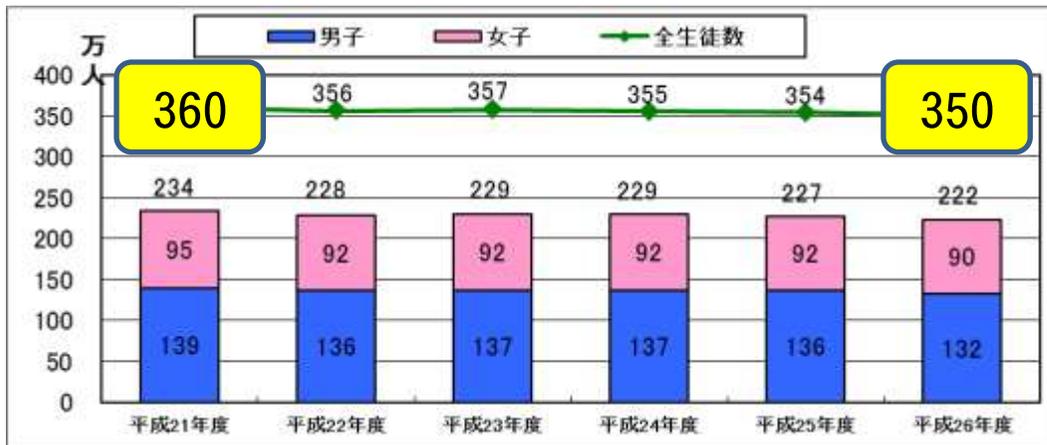


ハンドボール投げ(13歳～19歳)

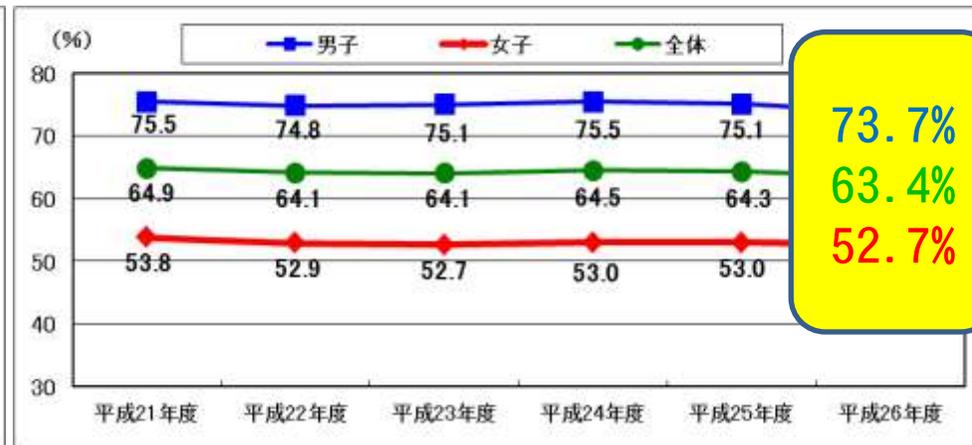


運動部活動の状況（参加生徒数・参加率の推移）

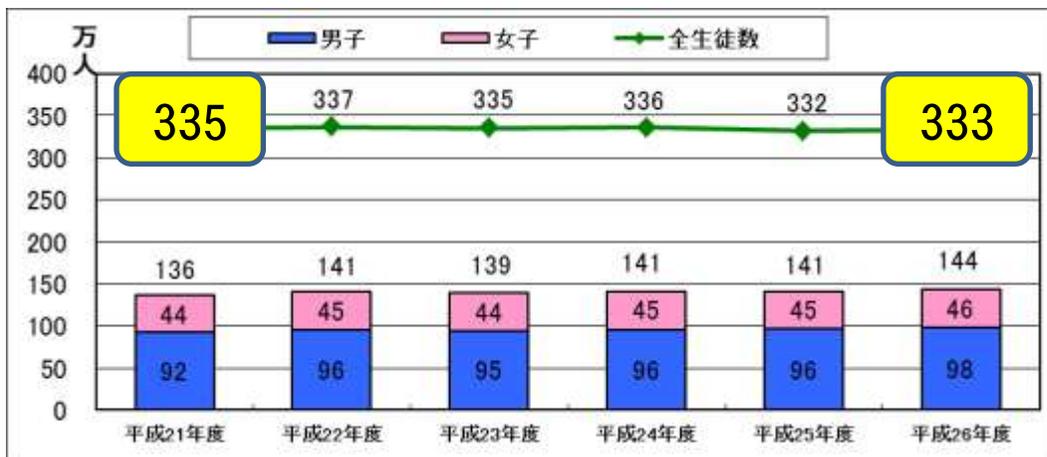
○中学校における運動部活動参加生徒数



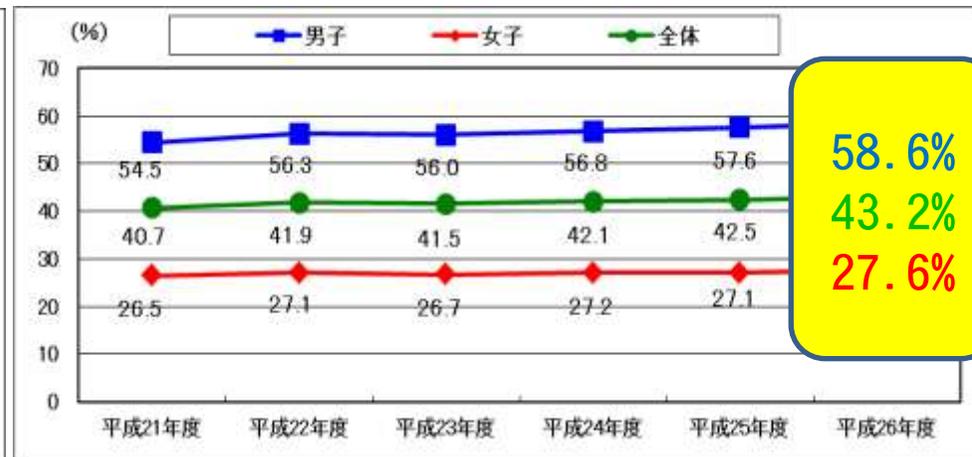
○中学校における運動部活動の参加率



○高等学校における運動部活動参加生徒数



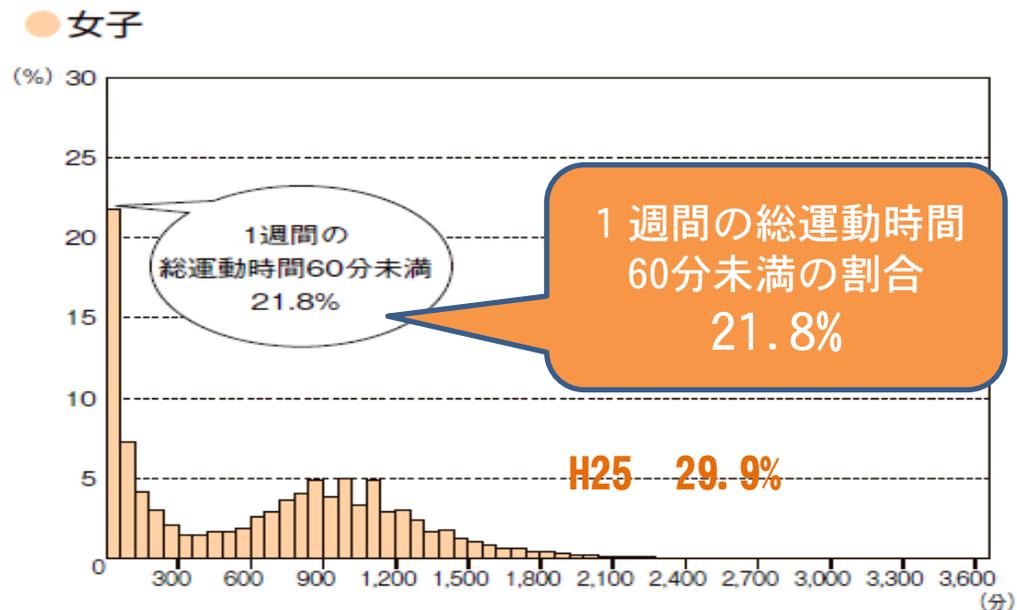
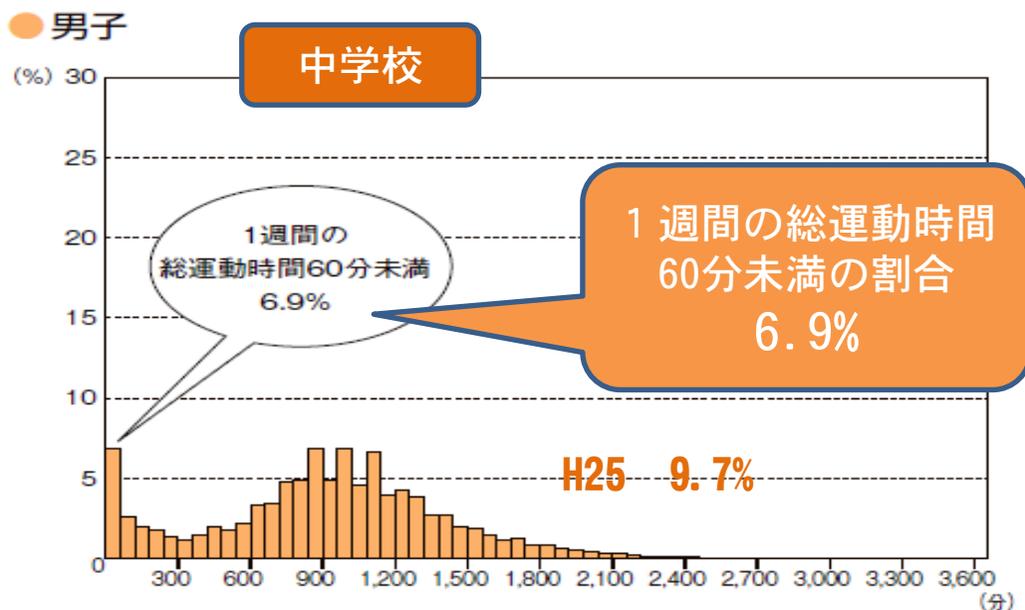
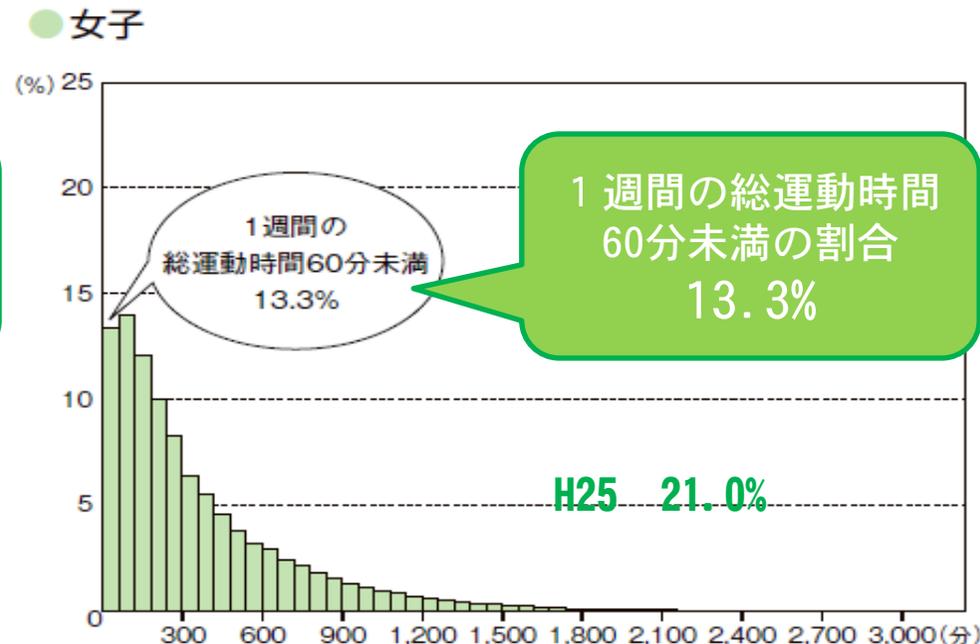
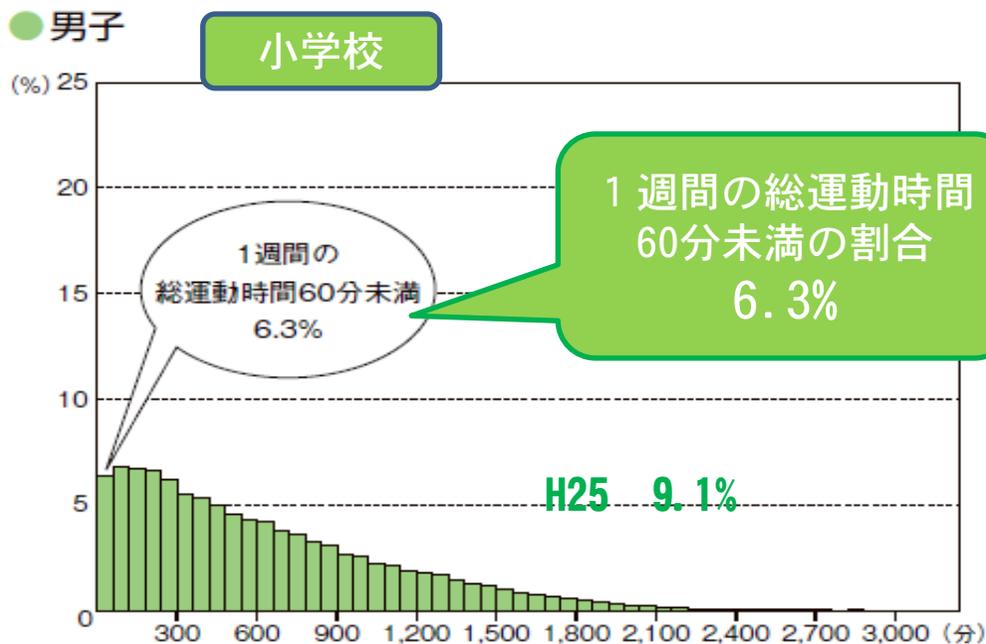
○高等学校における運動部活動の参加率



中学校：（公財）日本中体連調べ（全国中学校体育大会種目のみを合計）

高等学校：（公財）全国高体連及び（公財）日本高野連調べ（インターハイ種目及び硬式野球・軟式野球を合計）

体育・保健体育の授業以外の1週間の総運動時間の分布



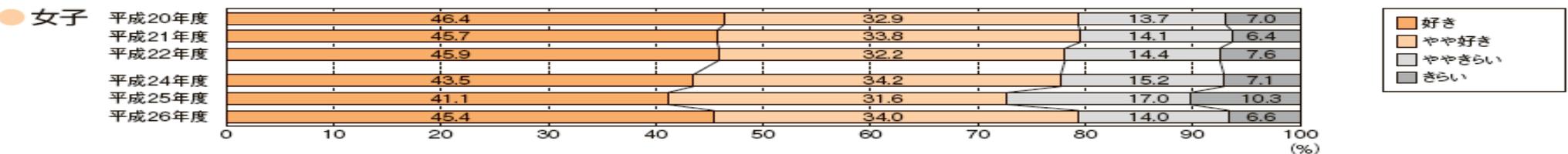
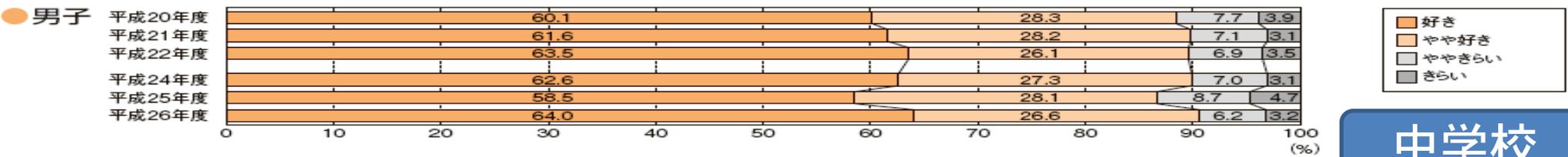
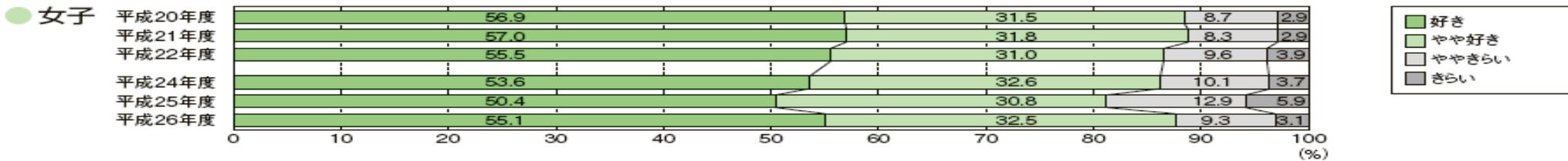
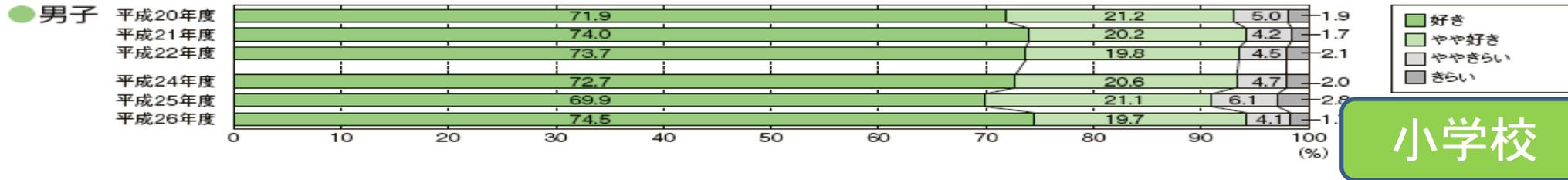
運動やスポーツに対する意識の変化

< 運動やスポーツの好き・きらいの推移 >

運動やスポーツの好き・きらいでは、小学校男女、中学校男女のすべてにおいて、昨年度と比較して、好きと回答した割合が高かった。

特に、小・中学校男子で、運動やスポーツが好きと回答した割合は、平成20年度以降で最も高かった。

た



指導方法の変革を支援する方策について

文部科学省作成の各種資料（高等学校向け）

- ・新しい学習指導要領に基づく剣道指導に向けて
（学校体育実技指導資料「剣道指導の手引」(参考資料)(平成22年3月)
- ・新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」
リーフレット(平成23年3月)
- ・評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校保健体育】(平成24年7月)(国立教育政策研究所)
- ・学校体育実技指導資料「体づくり運動(改訂版)」(平成24年7月)
- ・学校における体育活動中の事故防止について(平成24年7月)
- ・学校体育実技指導資料「柔道指導の手引(三訂版)」(平成25年3月)
- ・学校体育実技指導資料「表現運動系及びダンス指導の手引」(平成25年3月)
- ・言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】(平成26年1月)
- ・学校体育実技指導資料「水泳指導の手引(三訂版)」(平成26年3月)
- ・柔道指導のための映像参考資料(平成26年3月)・・・DVD→アプリ公開
- ・リズム系ダンス指導のための映像参考資料(平成26年3月)・・・DVD
- ・学校における体育活動中の事故防止のための映像資料(平成26年3月)・・・DVD
- ・平成25年度学校体育振興事業研究報告書(平成26年10月)
- ・学校体育実技指導資料「器械運動指導の手引」(平成27年3月)

文部科学省主催の研修会等（高等学校向け）

- ・全国都道府県・指定都市教育委員会学校体育担当指導主事研究協議会
- ・高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会(年2回)

発達の段階を踏まえた指導内容の体系化

就学前（幼児期）から多様な運動遊びを推進

← 系統性 →							
小学校			中学校		高等学校		
1, 2年	3, 4年	5, 6年	1, 2年	3年	入学年次	次の年次	それ以降
各種の運動の基礎を培う時期			多くの領域の学習を経験する時期		卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期		
体づくり運動			体づくり運動		体づくり運動		
器械・器具を使ったの運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動
走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動
水遊び	浮く・泳ぐ運動	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳
表現・リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス
ゲーム	ゲーム	ボール運動	球技	球技	球技	球技	球技
			武道	武道	武道	武道	武道
			体育理論		体育理論		
	保健領域		保健分野		科目保健		

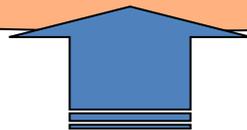
豊かなスポーツライフ

- ・ 高校入学年次においては、「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」及び「ダンス」の中から一つ以上を、「球技」及び「武道」の中から一つ以上をそれぞれ選択して履修
- ・ その次の年次以降においては、「器械運動」から「ダンス」までの中から二つ以上を選択して履修

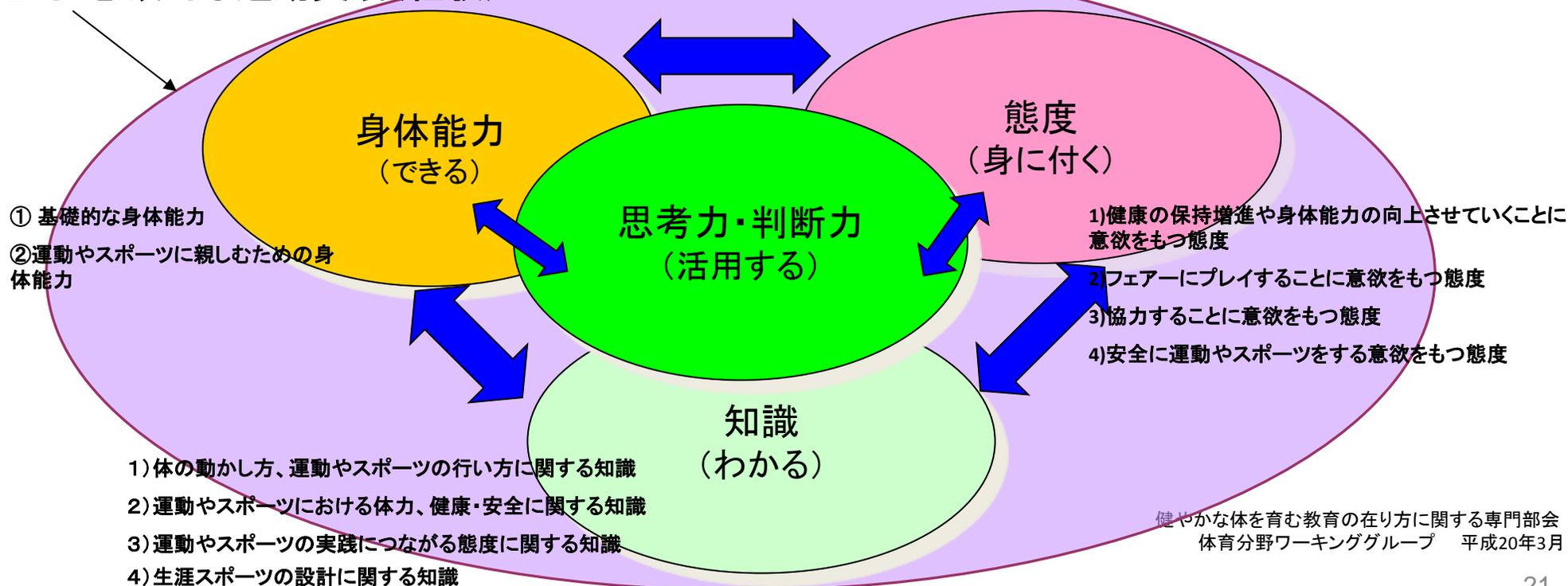
「身体能力」、「態度」、「知識、思考・判断」の関係図

イメージ図①

生涯にわたる豊かなスポーツライフの継続
～生涯にわたって運動やスポーツに親しむために～



合理的・意欲的な運動実践(経験)



健全な体を育む教育の在り方に関する専門部会
体育分野ワーキンググループ 平成20年3月

【参考】「身体能力」の例示

「身体能力」の例示

イメージ図②

① 基礎的な身体能力

- 1) 短時間に集中的に力を発揮する身体能力
 - ・全力で加速した後、最高スピードを維持することができる。
 - ・全身を使って、その場で高くあるいは遠くへ跳ぶことができる。
 - ・自分と同じくらいの重さの人を、押したり、引いたりすることができる。
- 2) 持続的に力を発揮する身体能力
 - ・一定のペースを維持して、走り続けることができる。
 - ・自分と同じくらいの重さの人を、背負って歩き続けることができる。
- 3) 柔軟性を発揮する身体能力
 - ・膝を伸ばしたまま、両手で足首に触れることができる。
 - ・壁を背にして立ち、体を捻って真後ろの壁に両手で着くことができる。
- 4) 巧みに身体を動かす身体能力
 - ・なわを跳んだり、輪を転がしたりするなど、用具を様々な操作することができる。
 - ・狭い場所や不安定なものの上で、歩いたりバランスをとったりすることができる。
 - ・器械・器具で、体を支えたり回ったりすることができる。
 - ・水の中で、浮いたり進んだりすることができる。
 - ・リズムをとって、身体を動かすことができる。
 - ・大きさの異なるボールを、手や足、用具を使って、投げる、蹴る、打つ、捕るなど、さまざまに操作することができる。
 - ・危険やけがを回避できるよう、転がったり人をおかわしたりすることができる。

①基礎的な身体能力

1)～4)に例示した動きのすべてを、一度は身に付ける。

動きのまとめ

個人的な運動で自分の身体や用具を操作する

個人的又は集団的な運動で演技したり表現したりする

ゲームで身体やボールを操作する

対人的な運動で対する相手の動きを制する

②運動やスポーツに親しむための身体能力

- 1) 個人的な運動で自分の身体や用具を操作する身体能力
 - ・速い脚の回転（ピッチ）と歩幅（ストライド）を維持して、短い距離を走ることができる。
 - ・助走のスピードを生かしたり、腕の振り込みを使って、跳ぶことができる。
 - ・手首のスナップ、上体の反り、体重移動、助走の勢いを使って、投げることができる。
 - ・体の上下動を小さくして、長い距離を走ることができる。
 - ・推進力を得るように、水を腕の動きでキャッチしたり、脚でキックしたりして、息継ぎをして泳ぐことができる。
- 2) 個人的又は集団的な運動で演技したり表現したりする身体能力
 - ・体を回転させる、手や腕で体を支える、支持して跳ぶ、体のバランスをとる技によって、演技することができる。
 - ・個人や集団で、音楽などのリズムに合わせて、テーマに合わせて創り出した動きで表現することができる。
- 3) ゲームで身体やボールを操作する身体能力
 - ・ゴールに体を向けてボールをシュートしたり、ねらった場所にパスをしたり、シュートやパスにつながるドリブルで進んだりして、身体やボールを操作することができる。
 - ・相手コートに体を向けてボールをスパイク（スマッシュ）したり、ボールのコースや落下点に入ってレシーブ（打ち返し）したりして、身体やボールを操作することができる。
 - ・飛んでくるボールに合わせて打ち返したり体を向けてキャッチしたり、ねらった場所にボールを投げたりして、身体やボールを操作することができる。
- 4) 対人的な運動で対する相手の動きを制する身体能力
 - ・相手のバランスを崩して倒したり（倒されないように防いだり）、相手の動きを制限したり（制限されないようにかわしたり）して、組んだ相手の動きを制することができる。
 - ・振りかぶって対する相手の打突部位を打ったり、かわして打ったりして、対する相手の動きを制することができる。
 - ・相手を押したり投げたりして、組んだ相手の動きを制することができる。

②運動やスポーツに親しむための身体能力

1)～4)に例示した動きのうち、少なくとも3つの動きを身に付ける。

健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会
体育分野ワーキンググループ 平成20年3月

「態度」の例示

イメージ図③

態度

1) 健康の保持増進や身体能力を向上させていくことに意欲をもつ態度

- ・健康や体力を保持増進するために、運動やスポーツに進んで取り組もうとする。
- ・技能上達を目指して動きを追求したり、知識を身に付けたりすることに進んで取り組もうとする。

2) フェアにプレイすることに意欲をもつ態度

- ・ゲームに伴う勝敗の結果を受け入れようとする。
- ・共に運動やスポーツを行う仲間を尊重し合おうとする。
- ・運動やスポーツで、独自の楽しさ、平等性、安全を保障するためのルールを守ろうとする。

3) 協力することに意欲をもつ態度

- ・準備や片付けで、分担されたことを果たそうとする。
- ・円滑に練習や試合を行うための約束を守ろうとする。
- ・活動場面では、お互いに助けたり、助言したりしようとする。

4) 安全に運動やスポーツをすることに意欲をもつ態度

- ・運動するときの順番、安全に対する決まり、自分の体調に配慮するための約束を守ろうとする。
- ・用具、器具を点検し、安全を確保しようとする。

1)～4)に例示した態度のすべてを身に付ける。

【参考】「知識、思考・判断」の例示

「知識、思考・判断」の例示

イメージ図④

① 知識

1) 体の動かし方、運動やスポーツの行い方に関する知識

A 動き方、動きの構造やコツ等

動きの構造、動き方

B 運動やスポーツの行い方

技術・作戦・戦術、運動やスポーツの上達過程、技能上達の方法

C 用具やルール

用具等の名称、ルールの用語と意味

2) 運動やスポーツにおける体力、健康・安全に関する知識

D 発育・発達、体力の分類や高める意義、その高め方

体力の分類、体力向上の意義、健康・体力への寄与、
運動やスポーツが「身体と心に与える影響」、体力の高め方、個人差

E 運動やスポーツにおけるけが、疾病、障害、安全

けが、疾病、障害の種類、用具・施設の使い方、自然環境とのかかわり方、
安全な活動の仕方、対処法

3) 運動やスポーツの実践につながる態度に関する知識

F フェアプレイ

フェアプレイの意義、ルール・マナーの意義

G 活動場面

協力することの意義、チャレンジの意義

H 自主的な活動、課題解決学習の方法（◆思考・判断の方法の知識）

運動観察の方法、課題解決の方法、意思決定の方法

4) 生涯スポーツの設計に関する知識

I 運動やスポーツの意味やかかわり方

運動やスポーツの楽しさ、ライフステージに応じた楽しみ方、
運動やスポーツの継続、運動やスポーツへのかかわり方、生涯スポーツの

振興

J 運動やスポーツについての考え方や発展の歴史

スポーツの歴史、オリンピックムーブメント、アンチドーピング

A～Jに例示した知識をすべて身に付ける。

知識の活用

運動・スポーツの 実践に活かす

体の動かし方、運動や
スポーツの行い方に
関する知識の活用

運動やスポーツの体
力、健康・安全に
関する知識の活用

運動やスポーツの実
践につながる
態度に関する
知識の活用

生涯スポーツの設 計に活かす

生涯スポーツの設
計に関する
知識の活用

② 思考・判断

1) 体の動かし方、運動やスポーツの行い方に関する思考・判断

A 運動場面で運動の行い方の改善すべきポイントを見つけることができる。

B チームの状況に応じて、作戦を立てたり、戦術を選んだりすることができる。

C 記述や会話に、用具の名称やルールの用語を適切に利用することができる。

2) 運動やスポーツにおける体力、健康・安全に関する思考・判断

D 運動する目的や体力に応じて運動の強度や頻度を選択することができる。

D 体と心の状況に気付いたり、体と心の調子を整えたり、仲間と交流をしたりするため手軽な運動を選ぶことができる。

E 用具を安全に使用するなどけがを防止するために必要な行動を選択することができる。

E 熱中症などの危険を回避するために必要な行動を選択することができる。

3) 運動やスポーツの実践につながる態度に関する思考・判断

F ゲームや練習におけるフェアなプレイについて指摘することができる。

G 仲間と協力する場面で、役割に応じた協力の仕方を見つけることができる。

H 個人やチームの課題に応じて、適切な練習を選ぶことができる。

H チームの意思決定の際には、合意のための適切な方法を選ぶことができる。

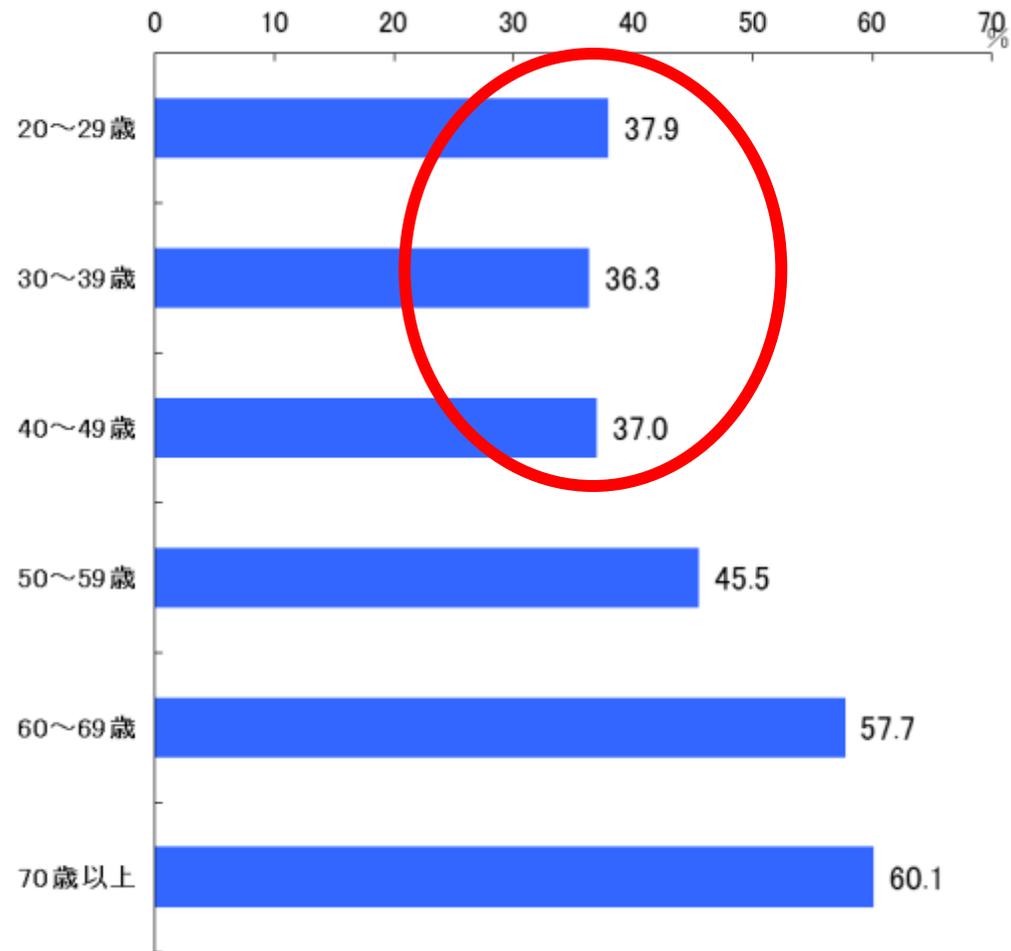
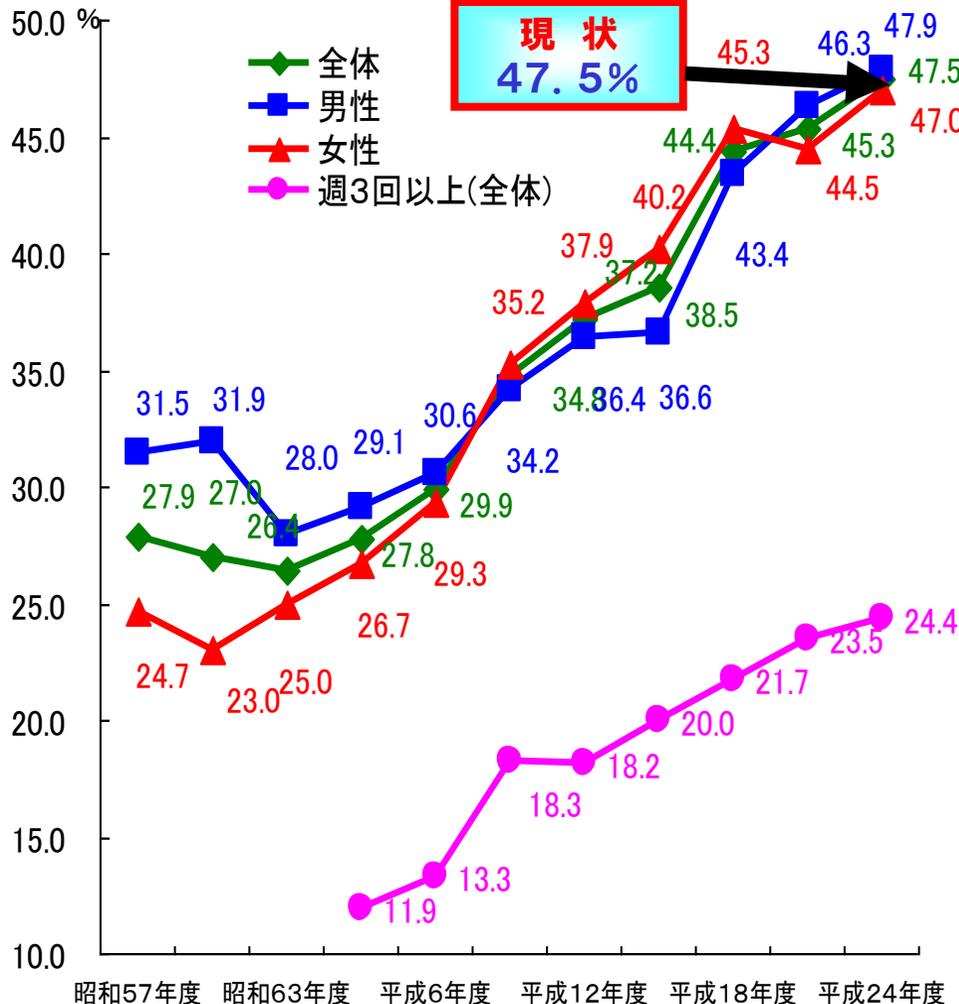
4) 生涯スポーツの設計に関する思考・判断

I 運動に関する様々な知識をもとに、生涯を通じた運動やスポーツとの自分に適したかかわり方を見つけることができる。

1)～4)に例示した思考・判断のうち、それぞれ少なくとも1つの思考・判断を身に付ける。

【参考】成人の週1回以上のスポーツ実施率の推移

- 成人全体のスポーツ実施率(週1回以上)は、緩やかであるが上昇傾向にある。
- 20代～40代のスポーツ実施率は他の世代と比較すると低い。



【参考】スポーツ基本法（抜粋）

第二条（基本理念）

スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは人々の権利であることに鑑み、国民が生涯にわたりあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的かつ自律的にその適性及び健康状態に応じて行うことができるようにすることを旨として、推進されなければならない。

【参考】スポーツ基本計画（抜粋）

1. 学校と地域における子供のスポーツ機会の充実

政策目標：子どものスポーツ機会の充実を目指し、学校や地域等において、すべての子どもがスポーツを楽しむことができる環境の整備を図る。そうした取組の結果として、今後10年以内に子どもの体力が昭和60年頃の水準を上回ることができるよう、今後5年間、体力の向上傾向が維持され、確実なものとなることを目標とする。

（2）学校の体育に関する活動の充実

施策目標：教員の指導力の向上やスポーツ指導者の活用等による体育・保健体育の授業の充実、運動部活動の活性化等により、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒がスポーツの楽しさや喜びを味わえるようにするとともに、

体力の向上を図る

○資質・能力の育成に課題

- ・教材の工夫はみられるが、依然として講義を中心とした伝達型授業が行われる傾向。
- ・高校生の健康に関する思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識を活用する学習活動を取り入れることが不十分。
- ・高校生の保健に関する関心の低下。教師が保健について学習意欲を高めたり、実生活に活用したりする活動等を行っていないという課題。
- ・健康・安全の問題に対して危険予測、回避する能力等に課題

○内容に関する課題

- ・少子高齢化や疾病構造の変化等による現代的な健康課題(健康寿命の延伸、妊娠・出産に関する課題、がんや精神疾患等の予防など)の解決に役立つ内容が不十分である可能性。
- ・心身の健康の保持増進に資するスポーツの機会の確保等に課題

保健に関する現状と課題について②

※「保健学習推進委員会報告書」公益財団法人日本学校保健会（平成23年度文部科学省補助金による事業）より

○経験した保健学習の状況（高校3年生対象 男子1,881名 女子2,231名）

	高等学校1年生の内容		高等学校2年生の内容	
	男子	女子	男子	女子
好きでしたか	37.5%	39.7%	40.2%	43.2%
考えたり工夫したりできましたか	28.2%	29.8%	31.2%	34.0%
学習した内容は分かりましたか	62.1%	70.3%	64.4%	72.9%
質 問			肯定的な回答	
学習したことから、自分の生活や身の回りの環境について、振り返ったり、考えたりしていますか。			42.4%	
学習したことを、自分の生活に生かしていますか			47.4%	

○保健学習の指導状況（科目「保健」担当教師対象 632名）

質 問	肯定的な回答
教科書や教師用指導書以外に、本や新聞・雑誌などを利用しましたか	87.1%
課題解決的な学習を取り入れた授業を行いましたか	36.6%
課題に応じて学習グループを編成した授業を行いましたか	23.4%
生徒が考えたり工夫したりしていたと思いますか	58.9%
生徒が内容について理解したと思いますか	92.1%

保健の今後の在り方について（検討素案）

改善の視点（案）

[保健の課題]

- ・実生活や他教科等で活用できる汎用的なスキルを育成する必要がある。
- ・依然として講義を中心とした知識の伝達型授業が多い。

[学習方法や資質・能力に関する課題]

- ・健康課題を発見し、習得した知識を活用して課題解決する学習を取り入れることが必要。
- ・生徒の論理的な思考力(特に健康課題の解決方法を根拠に基づいて評価し、目的に応じて活用する力)に課題がある。
- ・生徒の健康に関する関心・意欲・態度に課題がある。
- ・生徒のコミュニケーション能力の育成に課題がある。
- ・危険予測や回避する能力、危険行動の抑制に課題がある。

[保健に関する内容の課題]

- ・少子高齢化や疾病構造の変化による現代的な健康課題の解決に役立つ内容が不十分である可能性。
例 高齢化に対応した健康寿命の延伸
少子化に対応した妊娠・出産等の課題
がんや精神疾患など
- ・自他の生命を守るための安全・安心に係る内容に課題
- ・心身の健康の保持増進とスポーツとの関連に課題

保健の育成する資質・能力の育成

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

社会生活を含めた総合的な健康の概念の理解

生涯にわたって健康・安全に関する課題に直面した際に、課題解決を目指して論理的に考え、意志決定・行動選択する力

健康・安全な社会づくりを目指して、他者とコミュニケーションし、健康的な環境づくりに参画する力

健康・安全に関心をもち、自己の健康に関する取組を肯定的に捉えたり、レジリエンスを強化したりする力

科目「保健」の在り方

健康の保持増進のための総合的な実践力を育成する科目

健康・安全への関心をもち、主体的、協働的に健康の保持増進に取り組む力を育成するとともに、健康・安全な社会づくりに参画する態度を育成すること

現代的な健康に関する課題解決的な学習を展開し、健康・安全に関する思考力、判断力、表現力を養うとともに、それらを自分の生活に生かしたり社会生活に役立てたりする力を育成すること

保健と体育をより一層関連させるため、健康とスポーツの関係を踏まえた内容や資質・能力を検討

検討の方向性（案）

生涯を通じて自らの健康を適切に管理し
改善していく資質や能力の育成

高等学校

個人及び社会生活における
健康・安全に関する内容

入学年次, 次の年次で2単位
(1)現代社会と健康
(2)生涯を通じる健康
(3)社会生活と健康

より総合的に
考え、理解する

中学校

個人生活における健康・
安全に関する内容

1~3年で48時間程度
(1)心身の機能の発達と心の健康
(2)健康と環境
(3)傷害の防止
(4)健康な生活と疾病の予防

より科学的に考
え、理解する

小学校

身近な生活に
おける健康・安
全に関する基
礎的な内容

3, 4年 8時間程度
(1)毎日の生活と健康
(2)育ちゆく体とわたし
5, 6年 16時間程度
(1)心の健康
(2)けがの防止
(3)病気の予防

より実践的に
考え、理解する

学びの方向性

配当時間と大項目

○研修等

名 称:保健学習協議会

主 催:文部科学省

期 間:平成26年8月26日(火)

参加者:中・高等学校等の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等(定員200名)

目 的:学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校・高等学校学習指導要領の実施に伴い、中学校・高等学校保健体育科の保健に関する指導が適切に実施するための方策や推進する上での課題を明らかにするため、教職員等を対象とした協議会を開催する。

内 容:保健教育の解説や講演、実践事例の発表、保健学習の推進を図るための協議

○指導事例集

名 称:「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引き

作 成:文部科学省(平成27年3月)

内 容:保健教育について、保健体育科で培った資質や能力を基本に、関連教科等において充実を図るために、保健教育に関する基本的な考え方について解説するとともに、参考となる指導事例を収録。



藝術教育

芸術系科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について①

昭和35年改訂（告示）目標

- 1 芸術の学習経験を通して、創造性に富む個性豊かな人間の形成を目指す。
 - 2 芸術の学習経験を通して、美的感覚を洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力とを養うとともに、情操の純化を図る。
 - 3 芸術の学習経験を通して、個人生活や社会生活を明るく豊かにする実践的な態度や能力を養う。
 - 4 芸術が、人間性の円満な発達や文化の調和的発展に欠くことのできないものであることを理解させるとともに、国際間の理解や親善に、芸術の果たす役割についても認識させる。
- 以上の目標の各項目は、相互に密接な関連をもって、全体として「芸術」の目標をなすものであり、「芸術」の各科目の目標のもととなるものである。指導にあたっては、各科目の目標とともに、教科の目標の達成に努めなければならない。

昭和45年改訂（告示）目標

芸術的な能力を伸ばし、情操を豊かにするとともに、創造性に富む個性豊かな人間の形成を目指す。このため、

- 1 芸術の学習経験を通して、美的感覚を洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力とを養う。
- 2 芸術の学習経験を通して、個人生活や社会生活を明るく豊かにする実践的な態度や能力を養う。
- 3 芸術が人間性の円満な発達や文化の調和的発展に欠くことのできないものであることを理解させるとともに、国際間の理解や親善に芸術の果たす役割について認識させる。

昭和53年改訂（告示）目標

芸術的な能力を伸ばし、創造の喜びを味わわせるとともに、芸術を尊重する態度を育て、豊かな情操を養う。

平成元年改訂（告示）目標

芸術的な能力を伸ばし、美に対する感性を高めるとともに、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。

平成11年改訂（告示）目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

平成21年改訂（告示）目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

芸術系科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について②

学習指導要領	音楽 内容	美術 内容	工芸 内容	書道 内容	科目 下線:選択必履修、()内:標準単位数
昭和35年改訂(告示)	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞 C 美術理論 (※Ⅱのみ)	A デザインの基礎練習 B デザインと製作 C 批判・鑑賞(※Ⅰ) 工芸理論(※Ⅱ)	A 表現 B 鑑賞 C 理解 (※Ⅱのみ)	音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(4) 美術Ⅰ(2) 美術Ⅱ(4) 工芸Ⅰ(2) 工芸Ⅱ(4) 書道Ⅰ(2) 書道Ⅱ(4)
昭和45年改訂(告示)	A 基礎 B 表現 C 鑑賞	A 絵画 B 彫塑 C デザイン D 鑑賞	A 構成と表示 (※Ⅱ、Ⅲは「表示」) B デザインと製作 C 鑑賞と理論	A 表現 B 鑑賞 C 理論 (※Ⅱ、Ⅲのみ)	音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 音楽Ⅲ(2) 美術Ⅰ(2) 美術Ⅱ(2) 美術Ⅲ(2) 工芸Ⅰ(2) 工芸Ⅱ(2) 工芸Ⅲ(2) 書道Ⅰ(2) 書道Ⅱ(2) 書道Ⅲ(2) ※普通科は最低3単位
昭和53年改訂(告示)	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 音楽Ⅲ(2) 美術Ⅰ(2) 美術Ⅱ(2) 美術Ⅲ(2) 工芸Ⅰ(2) 工芸Ⅱ(2) 工芸Ⅲ(2) 書道Ⅰ(2) 書道Ⅱ(2) 書道Ⅲ(2) ※普通科は最低3単位
平成元年改訂(告示)	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 音楽Ⅲ(2) 美術Ⅰ(2) 美術Ⅱ(2) 美術Ⅲ(2) 工芸Ⅰ(2) 工芸Ⅱ(2) 工芸Ⅲ(2) 書道Ⅰ(2) 書道Ⅱ(2) 書道Ⅲ(2) ※普通科は最低3単位
平成11年改訂(告示)	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 音楽Ⅲ(2) 美術Ⅰ(2) 美術Ⅱ(2) 美術Ⅲ(2) 工芸Ⅰ(2) 工芸Ⅱ(2) 工芸Ⅲ(2) 書道Ⅰ(2) 書道Ⅱ(2) 書道Ⅲ(2)
平成21年改訂(告示)	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	A 表現 B 鑑賞	音楽Ⅰ(2) 音楽Ⅱ(2) 音楽Ⅲ(2) 美術Ⅰ(2) 美術Ⅱ(2) 美術Ⅲ(2) 工芸Ⅰ(2) 工芸Ⅱ(2) 工芸Ⅲ(2) 書道Ⅰ(2) 書道Ⅱ(2) 書道Ⅲ(2)

※Ⅱは同科目のⅠを履修、Ⅲは同科目のⅡを履修した生徒が履修する

現行の学習指導要領における芸術科（音楽）の現状

○ 高等学校芸術科（音楽）の学習は、生徒の個性を生かした音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現及び鑑賞の能力を伸ばし、我が国の伝統音楽を含めた音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことをねらいとしている。

○ このねらいを実現するため、「音楽Ⅰ」（必履修）、「音楽Ⅱ」、「音楽Ⅲ」で編成し、各科目は「A表現」「B鑑賞」の二領域から構成。

- ・「A表現」は、「歌唱」、「器楽」、「創作」の各分野から構成。
- ・創造的な表現力を高めるとともに、音楽に対する総合的な理解を深める観点から、「音楽Ⅰ」では、表現領域の全ての分野と鑑賞領域を学習。
- ・音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの教材として、我が国の伝統音楽を含めること。
- ・「A表現」「B鑑賞」の学習では、「音楽を形づくっている要素*を知覚し、それらの働きを感受すること」を関連付けること。

※「音楽を形づくっている要素」とは、「音色」「リズム」「速度」「旋律」「テクスチャ」「強弱」「形式」「構成」などを指す。

生徒及び教師等の課題

- 自分が音楽で表したい表現意図や、感じ取った音楽のよさなどについて、音楽的な特徴を根拠として話し合ったり批評し合ったりして、生徒が表現や鑑賞の学習を主体的・能動的に深めていく指導を一層重視する必要がある。
- 音楽文化についての理解を深める学習については、教師が知識を教えることにとどまる傾向が見られることから、楽曲の文化的・歴史的背景と音楽のよさや美しさ、音楽と生活や社会との関わりに着目させるなどして、生徒が実感を伴って音楽文化の意味や価値を理解できるような指導の充実が望まれる。
- 我が国の伝統音楽を教材とした学習においては、表現領域と鑑賞領域の学習の関連を図ったり、扱う音楽の種類や表現形態の幅を広げたりするなどして、指導を一層充実することが望まれる。
- 小学校、中学校の学習を踏まえて、高等学校においても楽譜や音楽に関する用語、記号等について、生徒が音楽活動を通して理解できるような指導を引き続き行う必要がある。

感性を高め、資質・能力を育成する主体的・創造的な学習活動の充実

- 音や音楽を主体的に捉え、感性を高め、思考・判断・表現する一連の過程を大切にし、根拠をもって自分なりの表現意図をもったり価値判断したりできるよう、「音楽を形づくっている要素の知覚・感受」を全ての音楽活動の支えとなるよう一層明確に位置付けてはどうか。
- 他者と協調しながら音楽表現を生み出したり、音楽に対する価値意識を広げたりできるよう、音楽的な特徴や互いの感じ方、考えなどについて他者と伝え合う活動を一層大切にしているかどうか。またその際、楽譜や音楽に関する用語、記号等を有効なツールとして活用できるようにすることを大切にしているかどうか。

音楽文化についての理解を深める学習活動の充実

- 音楽が、国、地域、風土、人々の生活、文化や伝統などの影響を受け、生み出され、育まれてきていることの意味や価値を理解できるよう、音や音楽と生活や社会との関わりについて考えることを一層大切にし、生活の中での音や音楽の働きについて理解を深められるようにしているかどうか。

現行の学習指導要領における芸術科(美術)の現状

○ 高等学校芸術科（美術）の学習は、表現及び鑑賞に関わる幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性や美意識を育て、表現及び鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことをねらいとしている。

○ このねらいを実現するため、美術Ⅰ（必履修）、美術Ⅱ、美術Ⅲで編成し、各科目は「A表現」「B鑑賞」の二領域から構成。

- ・「A表現」は、「絵画・彫刻」、「デザイン」、「映像メディア表現」の各分野から構成。
- ・育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にするため、「A表現」の各分野の指導事項を、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」に分けて整理。
- ・「B鑑賞」は、「鑑賞の能力」を育成する領域としてのねらいを明確にするとともに、我が国の美術や文化についての学習を通して、美術文化についての理解を深め尊重する態度を養うことを重視。

生徒及び教師等の課題

- 表現及び鑑賞の活動を通して、感性や想像力を能動的に働かせて思考・判断し、発想や構想し、創造的に表現することや、美術作品などのよさや美しさなどを感知取り味わい、自分の中に新しい意味や価値をつくりだすなどの資質・能力の育成を一層重視する必要がある。
- 生徒一人一人が主体的によさや美しさを豊かに感じ取ったり、自己の思いや考えを基に創意工夫して表現し、その喜びを実感的に味わうことができるようになるための学習や、他者の見方や感じ方から自分自身の見方や感じ方を広げ、新しい価値に気付いたり作品に対する理解を深めたりする学習の一層の充実が求められている。
- 美術文化についての理解を深める学習が、単に知識などを学ぶだけにとどまり、美術の伝統的な価値観が現代の生活にも息づいていることに気付いたり、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めたりすることに至っていないなど、その価値を尊重し継承しようとする心情や態度の育成に課題が見られる。

育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした学習活動の充実

- 表現及び鑑賞の活動を通して育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にして学習活動を充実させるために、これまで以上に表現と鑑賞の相互の関連を図ることや、造形的な視点を豊かにもって対象やイメージなどを捉えたりすることができるような表現や鑑賞の指導を重視すればどうか。

豊かな感性や情操の育成

- 感性や想像力を能動的に働かせ、生徒一人一人が主体的に創造活動に取り組むことができるように、豊かに感じ取る力の育成を一層重視し、表現や鑑賞において領域や分野などとそれらに共通して働く資質・能力との関係を整理して示してはどうか。

生活や社会の中の美術の働きや、美術文化の理解を深める学習の充実

- 美術文化における、伝統的かつ創造的な側面を重視して理解を深める学習の一層の充実や、表現及び鑑賞の創造活動の喜びを実感的に味わうことができるようにするため、美術を通して生活や社会と豊かにかかわる態度を育むことを一層重視すればどうか。

現行の学習指導要領における芸術科(工芸)の現状

- 高等学校芸術科（工芸）の学習は、表現及び鑑賞に関わる幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を育て、表現及び鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことをねらいとしている。
- このねらいを実現するため、工芸Ⅰ（必履修）、工芸Ⅱ、工芸Ⅲで編成し、各科目は「A表現」「B鑑賞」の二領域から構成。
 - ・「A表現」は、自己の身近な生活に目を向け、自己の思いなどから発想し、制作する人の視点に立って創意工夫して表現する能力を育成する「身近な生活と工芸」と、使用する人や場などを考え発想し、社会的な視点に立って創意工夫して表現する能力を育成する「社会と工芸」の各分野から構成。
 - ・育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にするため、「A表現」の各分野の指導事項を、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」に分けて整理。
 - ・「B鑑賞」は、「鑑賞の能力」を育成する領域としてのねらいを明確にするとともに、我が国の工芸や文化についての学習を通して、工芸の伝統と文化についての理解を深め尊重する態度を養うことを重視。

生徒及び教師等の課題

- 表現及び鑑賞の活動を通して、感性や想像力を能動的に働かせて思考・判断し、発想や構想し、創造的に表現することや、工芸作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わい、工芸を通して心豊かな生活や社会を創造していくことの意義を理解するなどの資質・能力の育成を一層重視する必要がある。
- 生徒一人一人が主体的によさや美しさを豊かに感じ取ったり、自己の思いや社会的な視点を基に創意工夫して表現し、その喜びを実感的に味わうことができるようにするための学習や、他者の見方や感じ方から自身の見方や感じ方を広げ、新しい価値に気付いたり作品に対する理解を深めたりする学習の一層の充実が求められている。
- 工芸の伝統と文化についての理解を深める学習が、単に知識などを学ぶだけにとどまり、工芸の伝統的な価値観が現代の生活にも息づいていることに気付いたり、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めたりすることに至っていないなど、その価値を尊重し継承しようとする心情や態度の育成に課題が見られる。

育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした学習活動の充実

- 表現及び鑑賞の活動を通して育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にして学習活動を充実させるために、これまで以上に表現と鑑賞の相互の関連を図ることや、造形的な視点を豊かにもって対象やイメージなどを捉えたりすることができるような表現や鑑賞の指導を重視すればどうか。

豊かな感性や情操の育成

- 感性や想像力を能動的に働かせ、生徒一人一人が主体的に創造活動に取り組むことができるように、豊かに感じ取る力の育成を一層重視し、表現や鑑賞において領域や分野などとそれらに共通して働く資質・能力との関係を整理して示してはどうか。

生活や社会の中の工芸の働きや、工芸の伝統と文化の理解を深める学習の充実

- 工芸の伝統と文化における、伝統的かつ創造的な側面を重視して理解を深める学習の一層の充実や、表現及び鑑賞の創造活動の喜びを実感的に味わうことができるようにするため、これまで以上に工芸を通して生活や社会と豊かにかかわる態度を育むことを重視すればどうか。

現行の学習指導要領における芸術科(書道)の現状

- 高等学校芸術科（書道）の学習は、表現及び鑑賞に関わる幅広い創造的な活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、
書写能力の向上を図り、表現及び鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことをねらいとしている。

- このねらいを実現するため、「書道Ⅰ」（必履修）、「書道Ⅱ」、「書道Ⅲ」で編成し、各科目は「A表現」、「B鑑賞」の二領域から構成。
 - ・「A表現」は「漢字仮名交じりの書」、「漢字の書」、「仮名の書」の三分野から構成。
 - ・中学校国語科書写における学習を基礎に、総合的に書道に対する理解を深める観点から、「書道Ⅰ」においては、「A表現」の三分野全てと「B鑑賞」を学習。また、篆刻・刻字等の立体への視点を重視。
 - ・「A表現」は、創造的な書表現の技能を高めるとともに、作品の構想と工夫を通して、感性を働かせながら考えたり判断したりする資質や能力の育成。「B鑑賞」は、「鑑賞の能力」を育成する領域としてのねらいを明確にするとともに、書の伝統と文化についての理解を深め、尊重する態度を養うことを重視。

生徒及び教師等の課題

- 生徒一人一人が、書の伝統と文化を踏まえながら、意図に基づいた表現を構想し工夫することで、その喜びを実感的に味わったりすることができるような学習や、感じたことを確かな言葉で伝え合うことで、書に対する見方や感じ方を広げ、新しい価値に気付いたり作品に対する理解を深めたりする学習の一層の充実が求められている。
- 書の伝統と文化についての理解を深める学習については、単に知識などを学ぶだけにとどまる傾向があり、書の美の歴史的背景や諸文化との関連、また生活と社会との関わりなどに視点をあて、その価値を尊重し継承しようとする心情や態度の育成に至っていない現状が見られる。
- 表現や鑑賞の創造的な活動において、生徒が感性を働かせて思考・判断して、表現を構想し工夫したり、書のよさや美しさ、表現効果などを主体的に感じ取り味わったりするなど、生徒が能動的に学習を深めていくための資質・能力を一層重視する必要がある。

育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした学習活動の充実

- 感性を能動的に働かせて、生徒一人一人が主体的に表現や鑑賞の創造的な活動に取り組むことができるように、豊かに感じ取る力の育成を一層重視し、各領域や分野の学習に共通して働く資質・能力を明確に位置付けてはどうか。
- 書の伝統と文化を踏まえながら、自らの意図に基づいた表現を構想し工夫していく一連の過程を一層大切にってはどうか。また、根拠をもって伝え合うことで、書に対する見方や考え方を広げ、新たな価値を見いだすような学習を一層充実してはどうか。

書と生活や社会との関わりや、書の伝統と文化の理解を深める学習の充実

- 書の伝統と文化の理解を深める学習の一層の充実や、生活や社会の中で書が果たしている役割について考えることで、書への永続的な愛好心を育み、書を通して生活や社会と豊かにかかわる態度を育成することを重視してはどうか。

家庭科教育

家庭科目に関する学習指導要領改訂の経緯等について

昭和35年改訂（告示）→『家庭一般』4単位 普通科女子は4単位必履修

- (1) 家庭生活と家庭経営 (2) 計画的な経済生活 (3) 能率的な家庭生活 (4) 食生活の経営 (5) 衣生活の経営 (6) 住生活の経営 (7) 乳幼児の保育 (8) 家庭生活の改善向上

昭和45年改訂（告示）→『家庭一般』4単位 すべての女子は4単位必履修

- (1) 家族と家庭経営 (2) 家族の生活時間と労力 (3) 家庭の経済生活 (4) 食生活の経営 (5) 衣生活の経営 (6) 住生活の経営 (7) 乳幼児の保育

昭和53年改訂（告示）→『家庭一般』4単位 すべての女子は4単位必履修

- (1) 家庭生活の設計・家族 (2) 衣生活の設計・被服製作 (3) 食生活の設計・調理 (4) 住生活の設計・住居の管理 (5) 母性の健康・乳幼児の保育 (6) ホームプロジェクト・学校家庭クラブ

平成元年改訂（告示）→「家庭一般」「生活技術」「生活一般」から1科目4単位を全員必履修

- 「家庭一般」内容：(1) 家族と家庭生活 (2) 家庭経済と消費 (3) 衣生活の設計と被服製作 (4) 食生活の設計と調理 (5) 住生活の設計と住居の管理 (6) 乳幼児の保育と親の役割 (7) ホームプロジェクトの実践と学校家庭クラブ活動

平成11年改訂（告示）→「家庭基礎」2単位「家庭総合」「生活技術」4単位から1科目を全員必履修

- 「家庭基礎」内容：(1) 人の一生と家族・福祉 (2) 家族の生活と健康 (3) 消費生活と環境 (4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

- 「家庭総合」内容：(1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもの発達と保育・福祉 (3) 高齢者の生活と福祉 (4) 生活の科学と文化 (5) 消費生活と資源・環境 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

平成21年改訂（告示）→「家庭基礎」2単位「家庭総合」「生活デザイン」4単位から1科目を全員必履修

- 「家庭基礎」内容：(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2) 生活の自立及び消費と環境 (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

- 「家庭総合」内容：(1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉 (3) 生活における経済の計画と消費 (4) 生活の科学と環境 (5) 生涯の生活設計 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

- 「生活デザイン」内容：(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立 (3) 食生活の設計と創造 (4) 衣生活の設計と創造 (5) 住生活の設計と創造 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

家庭科教育に関する現状と課題について①

※文部科学省「平成25年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査」より

家庭科の必修科目の開設状況(平成25年度入学生の教育課程)

	普通科				専門学科				総合学科
	1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
家庭基礎	53.5%	19.9%	2.3%	6.3%	29.8%	22.6%	11.0%	1.4%	74.4%
家庭総合	17.4%	23.6%	6.7%	1.0%	14.7%	30.0%	20.7%	0.6%	32.7%
生活デザイン	0.4%	0.6%	0.6%	0.3%	1.1%	1.9%	1.5%	0.2%	2.4%

- 「家庭基礎」(2単位)は、普通科では5割以上が1年次に、専門学科では半数程度が1・2年次に設定。
- 「家庭総合」(4単位)は、普通科では1・2年次に開設されているが、専門学科では2・3年次に開設されている。
- 「生活デザイン」(4単位)の開設割合は低い。



教育課程編成上、家庭基礎(2単位)の開設率が高くなっている

<参考>

【H27年度使用 高等学校用家庭科教科用図書需要数】

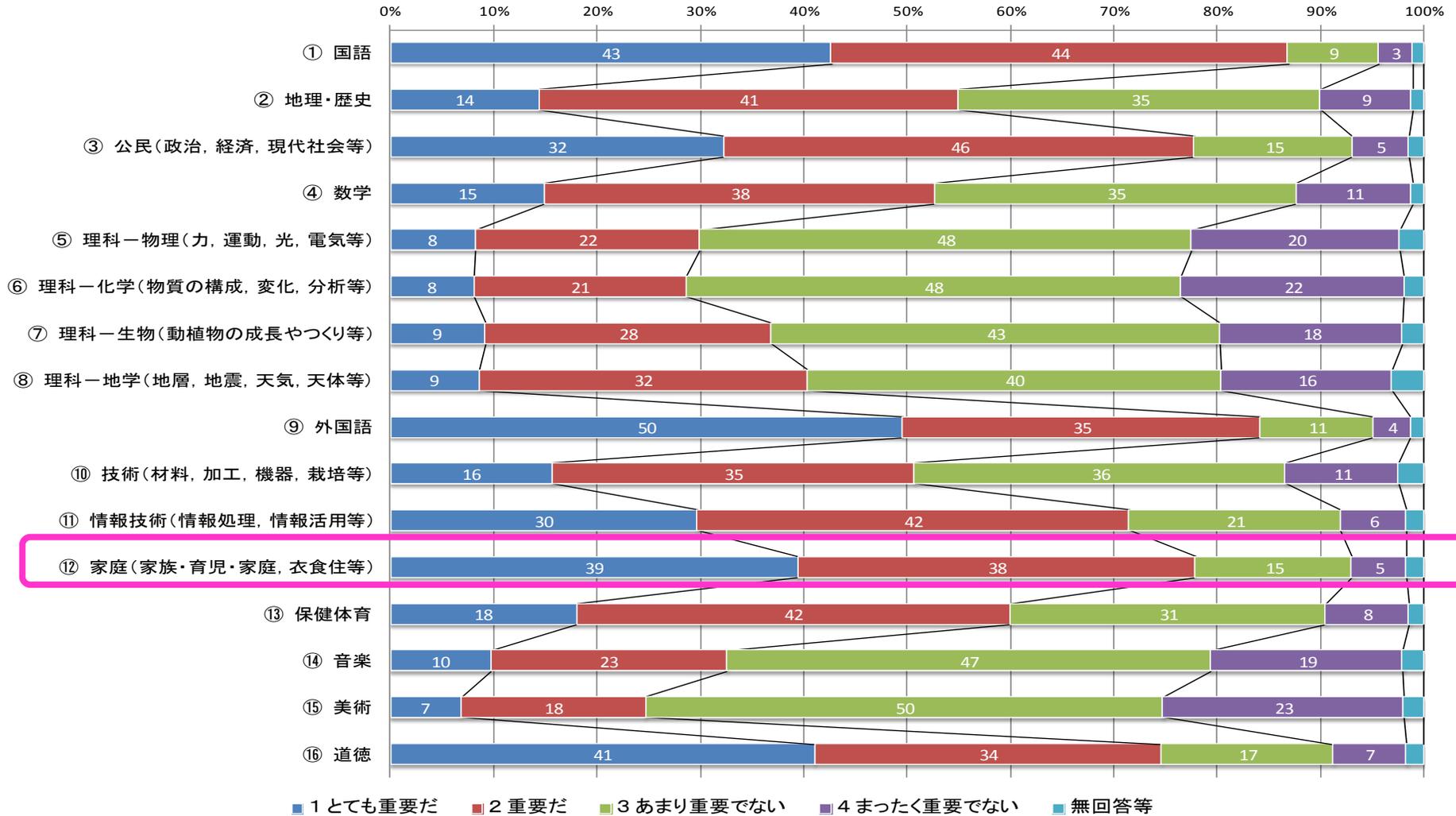
家庭基礎:962,196冊(76.6%) 家庭総合:285,269冊(22.7%) 生活デザイン:8,796冊(0.7%)

※この需要数は平成26年9月までに教育委員会から報告された生徒用及び教師用の必要見込み冊数であり、当該科目の履修者数とは一致しない。

※平成26年5月1日時点 高等学校在学者数 3,334,019人

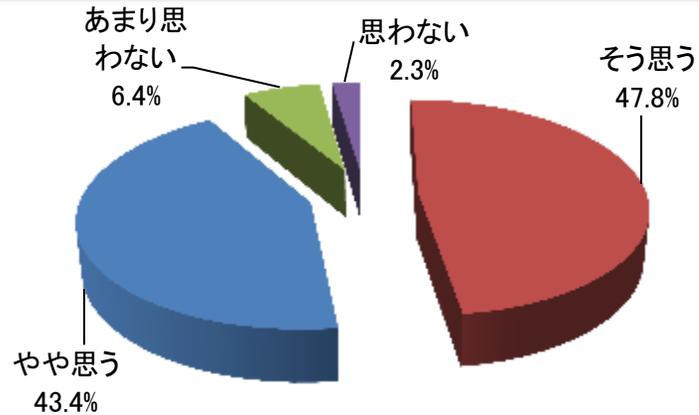
教科の重要性の意識(高3 全体)

I. あなたが将来生きていく上で重要な学習—高校3年生(全国値)



家庭科教育に関する現状と課題について③

高等学校 家庭科を学んでよかったか

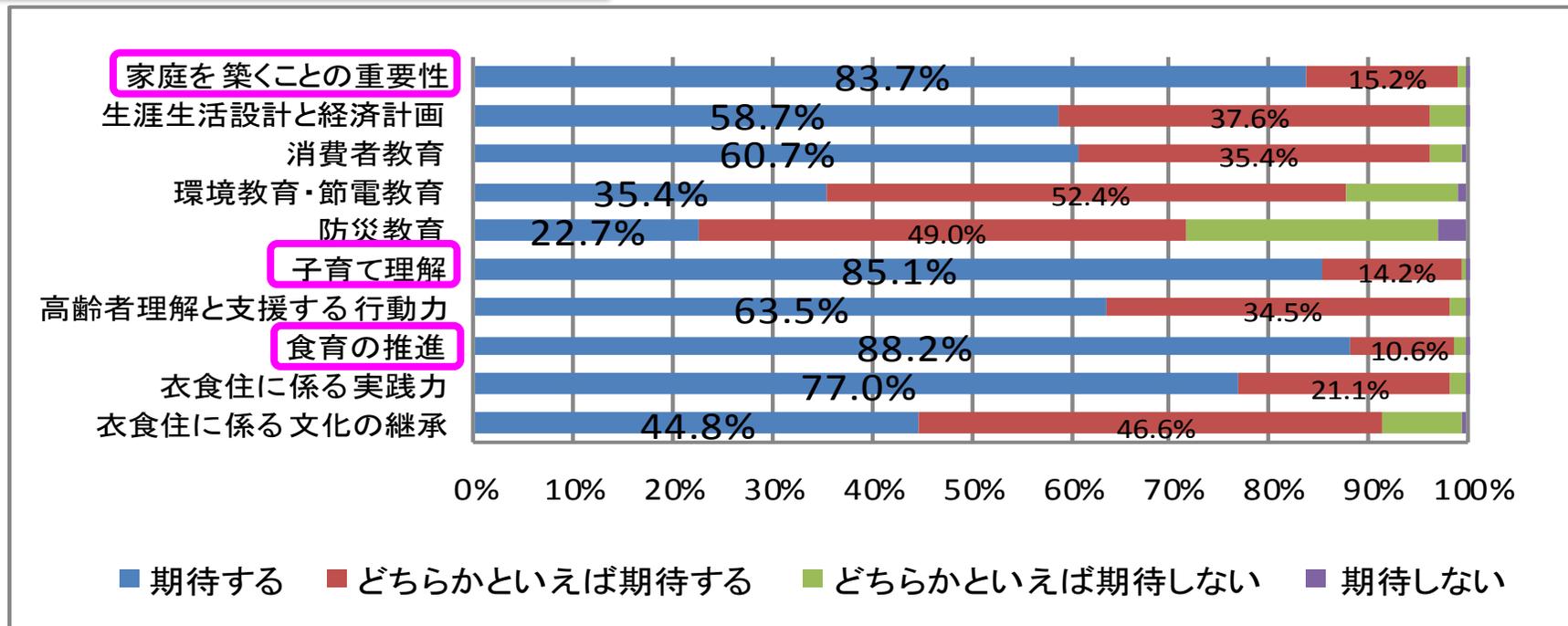


調査対象: 各地区の国公立高等学校45校の生徒1,918名
 調査方法: 家庭科教師立ち会いのもと自記入式のアンケート調査
 有効回答数: 1,863名(男729名, 女1,111名, 不明23名)

出所: 2007年6月
 日本家庭科教育学会「高等学校家庭科男女必修の成果と課題」

家庭科教育に関する期待度

(平成24年11月, 全国の高等学校長1,207名に調査, 908名から回答)



高等学校における家庭や地域と連携した家庭科の授業

ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動(家庭科版問題解決的な学習)

- ◆家庭科の授業で習得した知識と技術を、家庭生活や学校生活や地域の生活で生かすことが出来る問題解決能力と実践的態度の育成を重視。
- ◆生徒が主体的に家庭や地域に発信する学習の展開



第62回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会

平成26年7月31日(木)8月1日(金)山口市民会館

大会スローガン

「西の京やまぐちから全国へ みんなで架けよう 希望のアーチ」

◆昭和28年から毎夏各地から優れた実践研究の成果を発表し情報交換する全国規模の大会
平成27年度は北海道開催

◆「ホームプロジェクト」発表題目例

ブロック名	学校名	題目
近畿	五条市立奈良県立五条高等学校賀名生分校	我が家の約束 ～何でも食べて毎日元気～
中国・四国	高知県立安芸高等学校	我が家の防災対策、どうなっちゃう?!～防災改善計画～
九州	沖縄県立美里高等学校	大好きな てるばあちゃんへ ～家族で認知症介護を考える～
北海道	北海道札幌北高等学校	父と家族の健康単身赴任(忍)者修行!!
東北	福島県立喜多方東高等学校	希望につながるリハビリを～脳梗塞の回復・改善を目指して～
関東	埼玉県立鴻巣女子高等学校	魚魚と驚き、こんなにキレイに食べちゃった～ほねほね克服大作戦!～

◆「学校家庭クラブ活動」発表題目例

ブロック名	学校名	題目
北海道	北海道名寄産業高等学校	高齢者ソフト食に関する研究 ～食べる楽しみをいつまでも～
東北	岩手県立一関第一高等学校	ともに生きる社会をめざして ～震災復興への取り組み・継続研究
関東	群馬県立前橋西高等学校	我が郷土 ～絹に親しみ、着物リメイク～
北陸・中部	富山県立氷見高等学校	「ながらも」でHAPPY! ～地域に藻食を発信～
近畿	和歌山県立南部高等学校	みんなで参加! プチボランティア ～4班に分かれて 自分を磨こう!～
中国・四国	山口県立山口農業高等学校	山口外郎でつながる輪 ～伝統和菓子で地域に笑顔を～
九州	熊本県立熊本高等学校	守れ 食生活!! ～くまヘルと繋がるからだ心～

乳幼児や高齢者との交流

家庭科の特徴 実践的・体験学習な学習を重視

◆乳幼児との交流・・・子供を育てる視点から、子供を生み育てることの意義や子供と関わることの重要性を学ぶ。



乳児親子交流会

乳児親子交流会 生徒の感想

泣いている赤ちゃんをあやしながら質問に答えてくれるお母さんを見てすごいなあと思った。また、実際に抱いてみて、結構重くて少し長く抱いていると手が疲れるほどだった。この二つのことから、子供を育てていくことは喜びもたくさんあるけれど、大変なこともたくさんあって責任がともあることだと、今までで、一番実感した。



オムツ替えに挑戦



母子手帳やエコー写真を見て
小さな命を実感

◆高齢者との交流・・・地域の方を講師として招聘したり、施設訪問をしたりして高齢者に対する理解を深める。



郷土料理の講習会



施設訪問



高齢者疑似体験



工業高校生が車いすを修繕

家庭科目の今後の在り方について（検討素案）

〈成果〉

- ・女子のみ履修であった高等学校の家庭科は、平成6年度から男女必修となり21年が経過した。「家庭科は実生活に役立つ」、「家庭科を学習してよかった」と、生徒は肯定的に捉えている。
- ・「将来生きていくために重要な科目である。」という意識も高い。

〈課題〉

- ・生活体験が減少している生徒に対して、実験や実習等を取り入れ、現実の生活の中で活用するための実践力や応用力を身に付ける必要がある。
- ・生活上の課題を設定し、解決方法を考え計画を立てて実践するといった問題解決的な学習が効果的に行われていない。

[学習方法や資質・能力に関する課題]

- ・生活者として自立し、社会に参画するために必要な知識や技術を科学的な根拠に基づいて身に付ける必要がある
- ・問題解決的な学習において、「何を問題とし」「どう解決するのか」について、生徒の興味・関心を踏まえた学習になっていない。

[学習内容の課題]

- ・将来を見通した生活設計に必要な生活の課題(就職・結婚、各ライフステージで想定される生活上のリスクへの対応方法等)についての内容を充実する必要がある。

家庭科で育成する資質・能力の育成

- 生活を科学的に理解し、生涯を通して安心・安全・健康的な生活を営む実践力を育成する
- 生活の課題を解決するために、様々な年代の人と協働し、コミュニケーションして主体的に参画する力

◆少子高齢社会に対応する力
(子育て理解、高齢者の理解、生涯生活設計能力)

◆生活課題を解決するために必要な社会参画力、コミュニケーション能力(地域コミュニティを構築)

◆持続可能な社会を構築する力
(消費・環境に配慮したライフスタイルの確立)

◆グローバル化に対応する力
(衣食住の生活文化の継承・発信)

共通必修科目の在り方

- 社会の変化への対応
・少子高齢社会を踏まえ、乳幼児や高齢者を支えるために必要な知識や技術、コミュニケーション能力を育成

- 生涯を通して、自他の生命を守る衣食住生活の実践力を育成、食育の充実(例 生活習慣病を予防するために生涯を見通して食生活を営む力、災害時等の生活上のリスクに対応した衣食住の知識や技術等)

- 生活者の視点を踏まえた消費者教育の充実(生活情報を収集し、適切に意思決定する力を育成) ※公民科における新科目の在り方と連携

- 地域との交流等を通して社会に参画する力を育成

- 衣食住の生活文化の継承(例 和食、和装、生活を豊かにするもてなし等)

〈改善の視点(案)〉

〈検討の方向性(案)〉

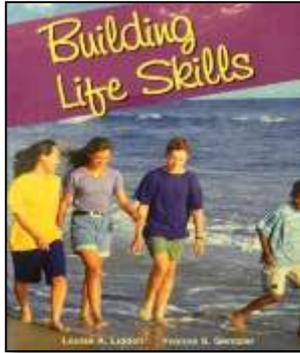
アメリカの家庭科教科書と「Skills (スキル)」と「Careers (キャリア)」

【家庭科教科書のタイトル】

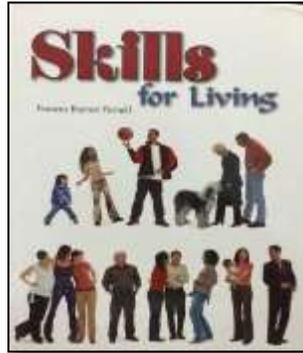
Building Life Skills
Skills for Living
Skills for Life

家庭科の学習内容は生活スキル、
生きるためのスキルにつながる

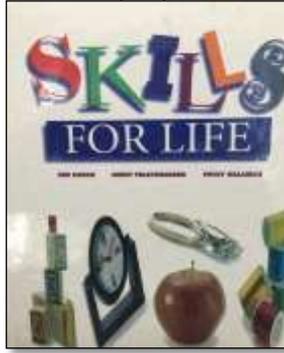
Grade Level: 6-9



Grade Level: 8-12



Grade Level: (7-9)



【家庭科教科書の構成】

- 最終章に、家庭科に関するキャリアの紹介
- 領域(家族、衣食住など)のまとめごとに、家庭科に関するキャリアの紹介

家庭科の学習内容は将来のキャリアに
つながる

【Building Life Skills (全47章)の構成】

- 1部 あなた自身
- 1章: 成長と変化 2章: パーソナリティ
3章: 挑戦すること
4章: 他者とのコミュニケーション
5章: 家族, 6章: 友人
(中略)
- 8部 高みへ
- 43章: グループで働く
44章: 仕事のスキル
45章: キャリア決定
46章: 家庭科に関するキャリア
47章: 家庭と仕事のバランス

【Skills for Life (全40章)の構成】

- 1部 ひとの発達
1章: たった一人のあなた 2章: 自己概念 3章: 意思決定/問題解決
- 2部 満足いく生活のためのマネージメント
4章: マネージメント 5章: マネージメントの資源 6章: 消費者としてのスキル
(中略)
- 8部 あなたを取り巻く環境
34章: あなたの個人空間 35章: 学校や地域を大切に,
36章: 安全で秩序ある環境 37章: 環境問題の今とこれから
- 9部 キャリア
38章: 仕事の世界, 39章: 雇い主が必要とするスキル, 40章: キャリアの探検

家庭科に関するキャリアを選ぶ
家庭科の領域に関連する仕事にはたくさんの魅力的なものがある。例えば、
子どもの発達や家族関係に関する仕事
栄養・健康・食物のマネージメントに関する仕事
家計や資源マネージメントに関する仕事
衣料に関する仕事
住宅やインテリアデザインに関する仕事
教育やコミュニケーションに関する仕事
これらの仕事は家族員が充実した生活を送るためにある。39章で学んだ基本的な技術だけでなく、専門的な技術も求められる。働くことが初めてという人向けの仕事もたくさんある。保育士助手, レジ, 販売員など。ある程度専門的な知識や訓練が必要とされる仕事もある。高校卒業後に教育をうければ, 保育所や幼稚園の助手, デザイナー助手, 仕立て職人, パン職人など。
大学を卒業して学士になれば, さらに多様な仕事に就くことができる。子どもの発達について学べば幼稚園教諭, 児童福祉相談員, 保育所の所長になることだってできる。食物や栄養学学科を卒業し, 資格試験に合格すれば, 栄養士の資格を取得することができる。被服について学べば, アパレル関係の会社や調査会社で働くことができる。住居学, インテリア, 環境デザインを専攻すれば, 関連会社で働いたり, 住宅コンサルタントとして働くことができる。(「40章キャリアの探検」の囲みを要約)

Careers in Family and Consumer Sciences			
	Child Care and Human Development	Family Counseling	Management and Entrepreneurship
Entry-Level Positions	Adoptive parent Family therapist Nursery school aide Child day-care worker Child-care assistant Camp counselor's aide	Homemaker's aide Dressmaker's aide Petroleum center aide Camp counselor	Consumer affairs aide Consumer survey assistant Office secretary Consumer product tester Assistant
Positions That Require Work Training	Playground director Teacher's aide School food service worker School leader Recreational leader	Wig-line operator Cosmetology specialist Retail sales staff Retailer Playground director Youth services worker Retailer services director	Consumer advice representative Consumer product specialist Consumer survey assistant Credit bureau research clerk Loan officer assistant Bank teller Collection agent
Positions That Require a College Degree	Nursery school teacher Designer of children's clothing, furniture, or toys Writer of children's books, stories, or games Child-care center or nursery school administrator Child welfare worker	Social worker Child-care counselor Family budget counselor Family Marriage Therapist School counselor Family health counselor	Retail credit manager Money investment advisor Consumer survey specialist Consumer affairs director Loan officer Consumer product specialist Consumer advisory management director Financial planner
	Receptionist Teacher Cashier's helper Shoe store clerk Stock clerk Sewer Retail ad business Dentist's helper Cobler's helper	Block clerk Sales clerk Cashier Retailer's assistant Laundry attendant Drycleaner Curtain repair specialist Fabric salesperson	Retail service manager Restaurant manager Hotel purchaser Restaurant supervisor Quality control supervisor Pastry and dessert chef Chef or retail cook Butler Restaurant owner
	Book clerk Sales clerk Cashier Retailer's assistant Laundry attendant Drycleaner Curtain repair specialist Fabric salesperson	Spewing machine operator Presser Buyer Display assistant Fashion photographer Fashion writer Sales manager Dry cleaner Alumnus Tailor/Reverend	Designer's helper Designer's assistant Nursery school caretaker Youth counselor Salesperson Teacher's aide Aid worker
	Designer's helper Designer's assistant Nursery school caretaker Youth counselor Salesperson Teacher's aide Aid worker	Designer's helper Designer's assistant Nursery school caretaker Youth counselor Salesperson Teacher's aide Aid worker	Junior high family and consumer sciences teacher High school family and consumer sciences teacher Family and consumer sciences professor Curriculum specialist Family and consumer sciences extension agent Adult educator

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間設置の経緯

* 昭和51年以来の研究開発学校等において実践研究。

○平成8年7月:中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(第一次答申)

○平成10年7月:教育課程審議会答申

総合的な学習の時間の創設の提言

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開できるような時間を確保
- ・社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために教科等を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間を確保

○平成10年12月:小中学校学習指導要領告示(12年4月より実施可、14年4月より全面实施)

平成11年3月:高等学校学習指導要領告示(12年4月より実施可、15年4月年次進行で実施)

総合的な学習の時間の創設

○平成15年12月:学習指導要領の一部改正(公布日施行、高校は15年4月入学生から適用)

総合的な学習の時間の一層の充実

- ・各教科等の知識や技能等を相互に関連付けること
- ・各学校における目標・内容の設定と全体計画の作成
- ・教師による適切な指導や教育資源の活用 など

○平成20年1月:中央教育審議会答申

- ・総合的な学習の時間の必要性和重要性の再確認。知識基盤社会において必要な資質・能力の育成に重要な役割を果たすという意義を踏まえ、時間数を縮減しながらも、新たに章立てをするなど位置付けの明確化、横断的・総合的な学習や探究的な学習の明確化を提言

○平成20年3月:小中学校学習指導要領告示(平成21年4月～先行実施)

平成21年3月:高等学校学習指導要領告示(平成22年4月～先行実施)

総合的な学習の時間の目標等

目標・内容の設定及び時数、単位数

■総合的な学習の時間の目標

「**横断的・総合的な学習**や**探究的な学習**を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、**協同的**に取り組む態度を育て、自己の生き方（高等学校では「在り方生き方」）を考えることができるようにする。」

第2 各学校において定める目標及び内容

1 目標

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

2 内容

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

■時数、単位数

- ・小学校3～6年生：各70時間
- ・中学校1年生：50時間、2・3年生：各70時間
- ・高等学校：3～6単位

各学校における内容の設定

■内容として、目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、生徒の興味・関心に基づく課題、学校の特色に応じた課題、職業や自己の将来にかかわる課題などのことであり、横断的・総合的な学習としての性格をもち、探究的に学習することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結び付いていくような、教育的に価値のある諸課題のことである。

各学校における資質や能力及び態度の設定

■育てようとする資質や能力及び態度

各学校において定める目標と、育てようとする資質や能力及び態度の2つにより、総合的な学習の時間の教育活動を通して「どんな生徒を育てたいか」を明示する。

■例えば、以下の三つの視点が考えられる

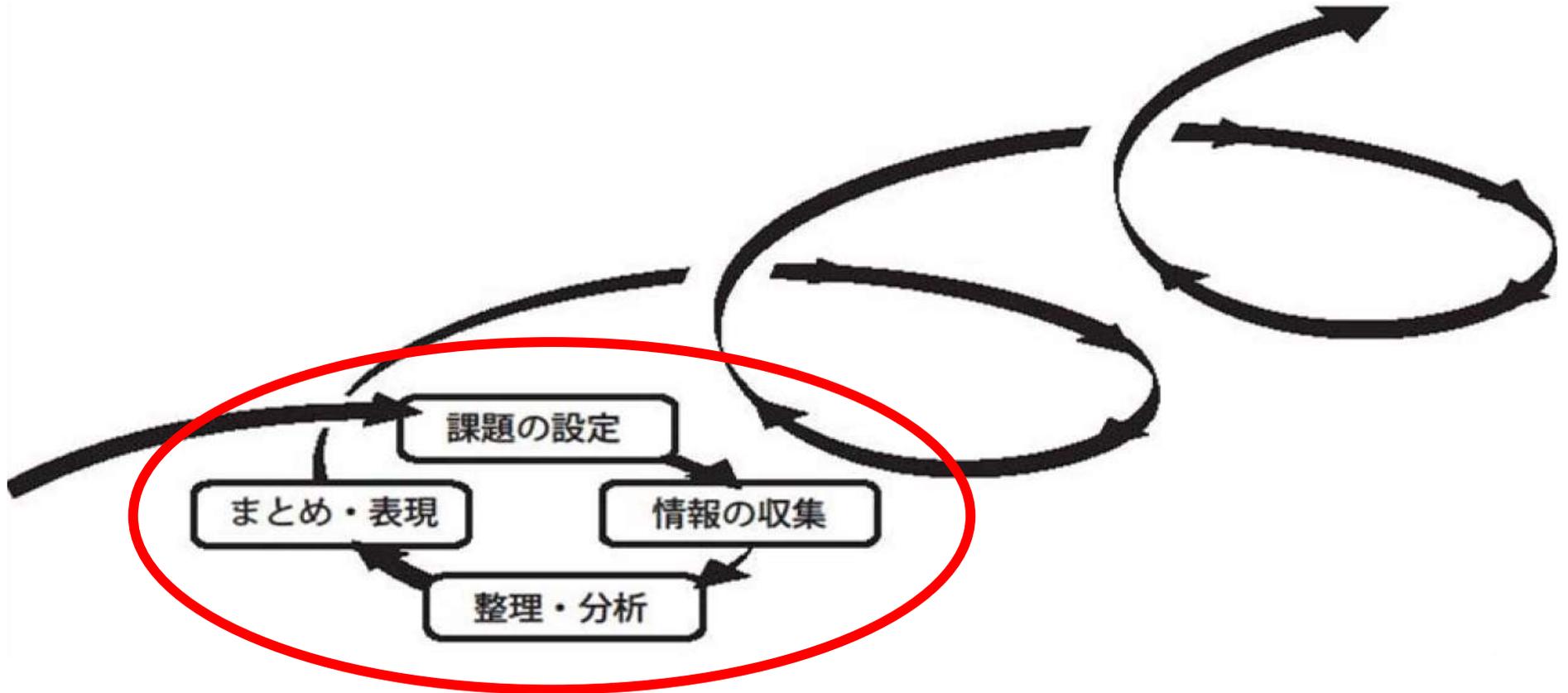
- ・学習方法に関すること
- ・自分自身に関すること
- ・他者や社会とのかかわりに関すること

(* 上記3つの視点は、OECDのキー・コンピテンシーにも符合する)

実社会で活用できる能力(例)



総合的な学習の時間における 探究的な学習における児童・生徒の学習の姿



■ 日常生活や社会に目を向け、児童・生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される

総合的な学習の時間における 探究のプロセス

読解のプロセス(PISA)

○情報へのアクセス・取り出し

○統合・解釈

○熟考・評価

探究のプロセス(総合的な 学習の時間)

①課題の設定:体験的な活動等を通じて課題意識をもつ

②情報の収集:必要な情報を取り出したり、収集したりする

③整理・分析:収集し、取り出した情報を整理、分析する

④まとめ・表現:気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

問題解決のプロセス (PISA)

○探究・理解

○表現・定式化

○計画・実行

○観察・熟考

総合的な学習の時間の実施状況

学年別の実施状況

(平成25年度入学者)

		全年次 で実施	1・2年 次で実 施	2・3年 次で実 施	1・3年 次で実 施	1年次 のみで 実施	2年次 のみで 実施	3年次 のみで 実施	小計	特例等
全日制	普通科	83.9%	4.6%	5.2%	3.4%	0.2%	0.0%	0.7%	98.0%	2.0%
	専門学科	14.2%	1.3%	1.5%	0.9%	0.2%	0.2%	2.2%	20.4%	79.6%
	総合学科	18.5%	0.7%	74.7%	2.0%	0.0%	0.7%	3.0%	99.7%	0.3%

注1 全日制課程における総合的な学習の時間の実施状況について、学科ごとの割合を示している。

注2 平成25年度入学者に適用される3年間の教育課程について記入している。

注3 研究開発学校やスーパーサイエンスハイスクールなど教育課程の特例を認められており、総合的な学習の時間を実施していない場合及び専門学科において課題研究等で全部代替している場合は、「特例等」に計上している。
(2)についても同様。)

総合的な学習の時間の単位数の設定状況

(平成25年度入学者)

		2単位	3単位	4単位	5単位	6単位 以上	小計	特例等
全日制	普通科	4.4%	91.2%	1.1%	0.4%	0.8%	98.0%	2.0%
	専門学科	1.3%	18.2%	0.8%	0.1%	0.1%	20.4%	79.6%
	総合学科	2.7%	88.9%	6.7%	1.3%	0.0%	99.7%	0.3%

学習指導要領上の規定
標準単位数 **3～6**
(特に必要がある場合には2単位と
することも可)

学年別の実施内容

(平成25年度入学者)

(複数回答)

学年		学習内容	国際理解	情報	環境	福祉・健康	伝統と文化	防災	まちづくり	キャリア	その他
			全日制	普通科	1年	28.0%	24.2%	32.1%	36.5%	29.8%	20.1%
2年	32.3%	23.3%			30.6%	31.0%	36.1%	17.8%	8.7%	80.7%	17.0%
3年	25.1%	22.0%			24.8%	29.3%	22.8%	16.8%	6.4%	80.2%	15.2%
※実施 学科数	44.2%	34.8%			43.9%	46.7%	48.3%	23.8%	14.9%	90.0%	24.1%
専門学科	1年	24.2%		19.7%	21.9%	24.7%	18.9%	12.8%	6.9%	66.6%	17.1%
	2年	26.6%		19.1%	21.5%	24.8%	23.5%	12.9%	6.9%	67.8%	17.3%
	3年	20.5%		19.7%	19.6%	25.1%	15.3%	11.9%	8.2%	66.4%	22.0%
	※実施 学科数	36.1%		30.7%	33.1%	35.0%	32.2%	17.3%	12.0%	81.5%	32.0%
総合学科	1年	5.1%		4.4%	7.1%	9.1%	5.7%	5.1%	1.3%	14.5%	7.7%
	2年	29.4%		26.0%	29.4%	30.7%	37.5%	15.9%	12.2%	81.4%	20.9%
	3年	38.5%		42.6%	36.8%	46.3%	38.9%	18.2%	17.6%	66.9%	33.4%
	※実施 学科数	46.6%		47.6%	46.6%	55.1%	52.0%	22.3%	21.3%	85.8%	39.2%

総合的な学習の時間の取り組み

学校名	取組例
A高等学校	<p>総合的な学習の時間の中で<u>オリジナル商品の開発</u>を行っている。毎年11月にA市商工部と協力し、店舗を構え開発した商品を販売。毎年3,000人あまりが来場。一昨年には、他校と協力し、<u>コンビニ4社とパン製造企業に新たな商品を提案</u>。連携先のコンビニで2週間限定で販売し、東北地区の販売数ナンバー1の商品となった。</p>
B中等教育学校	<p>6年間の中で、確かな学力の定着とともに、<u>地域の魅力に気付かせ、地域の抱えている課題を考えさせたい</u>と、教育目標に「<u>〇〇の歴史と文化に誇りをもち、豊かな人間性と知性を身につけ、世界的視野で活躍できる人材の育成</u>」を掲げる。 <u>「〇〇学」(総合的な学習の時間を活用)として地域に出かけていき、地域の課題を探しだし、その解決に向けた活動を生徒自身が考え</u>行っている。</p>
C高等学校	<p>C市や社会に貢献できる人材の輩出を目指し、総合的な学習の時間を構成。<u>2年次には市役所から正式に辞令を受け高校生職員として、地域の課題について考え、その解決策を検討して市に提案している</u>。市役所担当者も高校生の提案を受け入れる場面もあり、高校生は地域の一員としての自覚を確かにしている。</p>
D高等学校	<p>地域が学校運営に参画する<u>コミュニティ・スクール</u>に指定。「<u>自律創造型地域課題解決学習</u>」(総合的な学習の時間を活用)として、<u>地域から示された課題の解決策を地域とともに案出し、実際に実践</u>。E町の特産品の開発、観光マップの作成、イベントの開催など、<u>地域資源を生かしたアイデア</u>が生まれ、高校が地域の活性化の拠点となっている。</p>

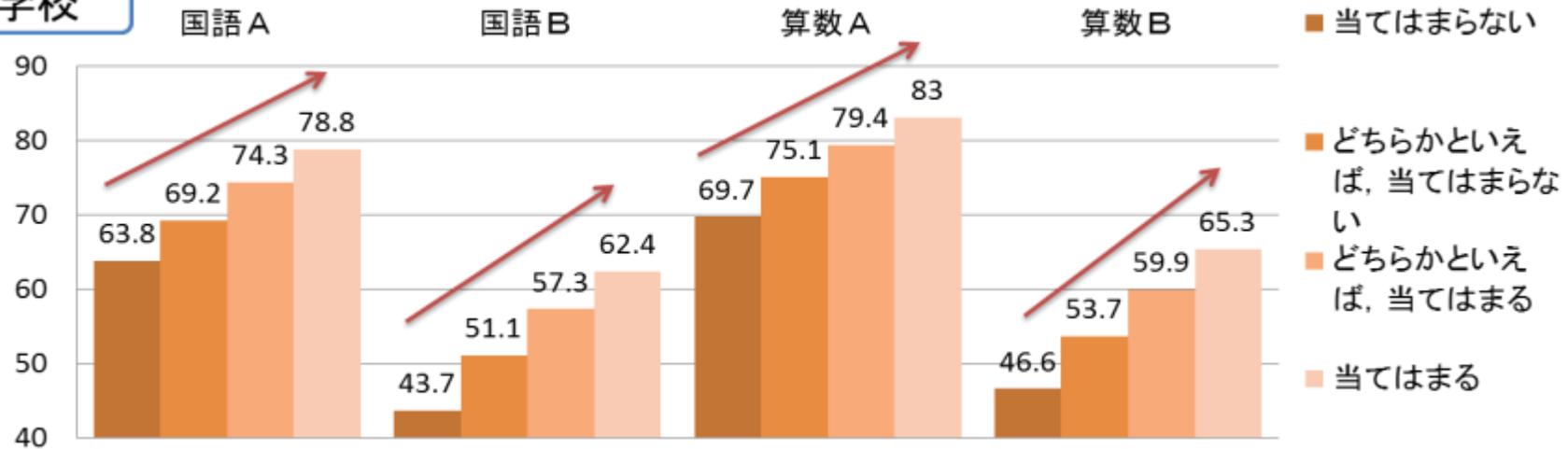
全国学力・学習状況調査の結果から

総合的な学習の時間に積極的に取り組んでいる児童・生徒ほど教科の平均正答率が高い。

児童(生徒)質問紙(40):「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

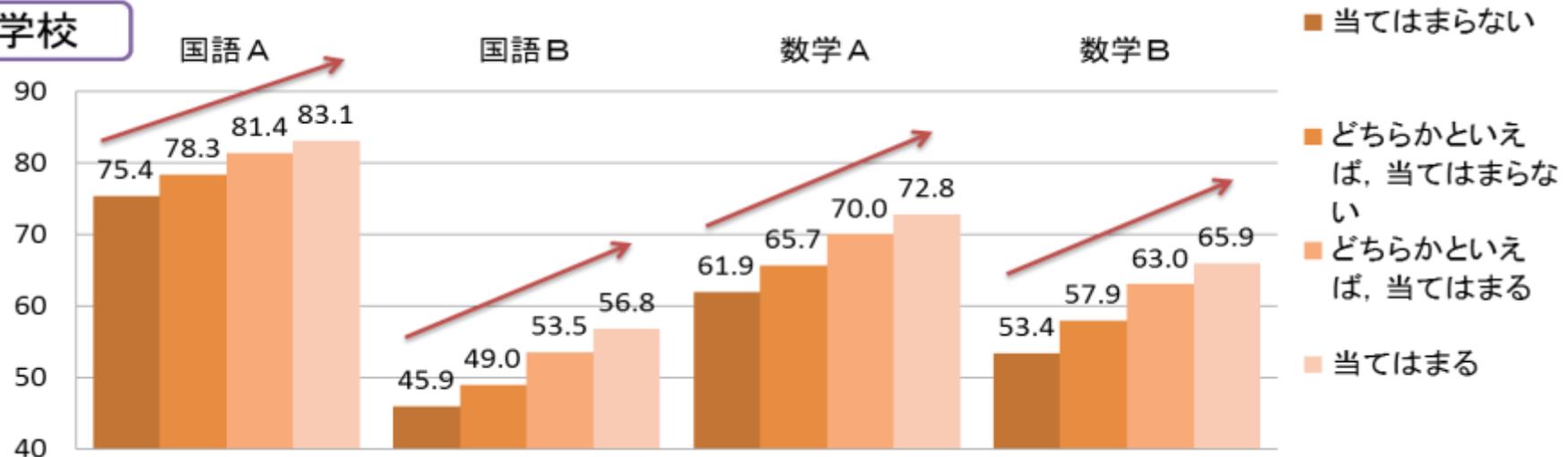
小学校

平均正答率(%)



中学校

平均正答率(%)



総合的な学習の時間に関する認識

- 半数以上の保護者は、総合的な学習の時間を削減に否定的。
総合的な学習の時間を削減すべきと考える保護者の数は5年間で半減。
- 「受験に役立つ学力」を教育に期待する保護者よりも、
「課題を発見する力」「物事を多面的に考える力」に期待する保護者の割合が高い。

■学校教育に対する保護者の意識調査

(朝日新聞・ベネッセ教育研究開発センター、2013.3. 28)

Q「総合的な学習の時間の削減」(平成20年調査→平成24年調査)

- ・「削減に賛成」「どちらかといえば賛成」: **48.0%**→23.8%
- ・「削減に反対」「どちらかといえば反対」: 36.8%→**51.8%**

Q「どのような学力を期待するか」

- ・課題を発見する力: 86.2%
- ・論理的に考える力: 84.1%
- ・物事を多面的に考える力: 87.9%
- ・主体的に行動する力: 88.8%
- ・受験に役立つ学力: 67.4%

日本生活科・総合的学習教育学会調査結果から①小学校

■調査目的 総合的な学習の時間による学習を通して育った児童の学力を全国的な調査によって把握し、分析することで、その教育的効果を明らかにする。

■調査時期 平成26年2月～3月

■調査対象と回答数 学校数38校、児童数2571名、教員数96名

全国5地域(東北、関東、中部、中国、九州の5市)の学校から、総合的な学習の時間の「先進校」「一般校」をそれぞれ3校程度抽出し、その5年生と担当学年の教員を対象とした。上記とは別に、総合的な学習の時間の趣旨に沿った実践を長年実施し、全国的に高い評価を得ている学校を「トップ校」として12校抽出し、その5年生と担当学年の教員を対象とした。

■調査結果 総合的な学習の時間のトップ校、先進校、一般校の間で有意に差が認められた能力は以下の能力であり、それは、探究的・協同的な学習活動など総合的な学習の時間の趣旨に沿った学習活動を展開することによって形成されることが明らかになった。

ア) 質の高い思考力、情報活用能力(設問9など)

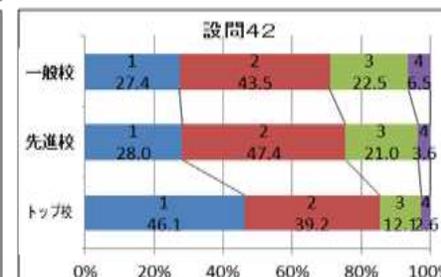
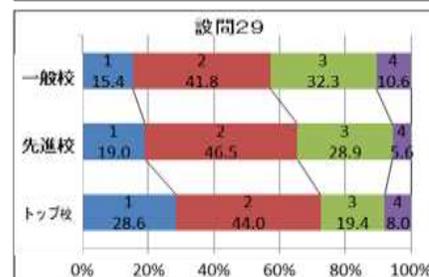
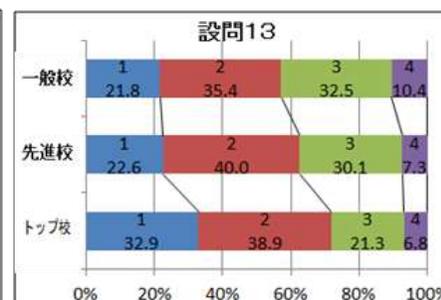
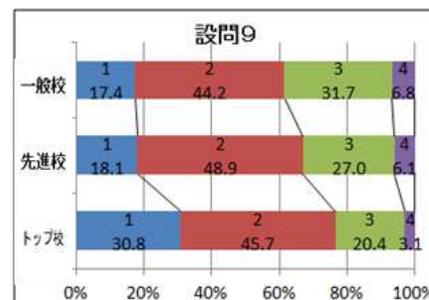
イ) 協同的な問題解決能力(設問13など)

ウ) 地域社会へ貢献しようとする意識(設問29など)

エ) 新しい社会的課題へ挑戦しようとする意欲

(設問42など)

また、トップ校の調査からは、学力・学習状況調査の結果についても、総合的な学習の時間の充実とともに向上してきたことが認められた。



■調査目的 総合的な学習の時間による学習を通して育った生徒の学力を全国的な調査によって把握し、分析することで、その教育的効果を明らかにする。

■調査時期 平成26年2月～3月

■調査対象と回答数 中学校数11校、中学校生徒数1178名、中学校教員数58名校
高等学校数10校、高等学校生徒数1539名、高等学校教員数98名

全国の総合的な学習の時間の趣旨に沿った学習を行っている中学校及び高等学校から抽出した学校は各学校の総合的な学習の時間の終了学年とした。

■調査結果

全体を通して、充実した総合的な学習を経験した中学校・高等学校の生徒は、自らの将来展望をしっかりと描き、他者の異なる考え方を受け入れ、課題解決に向けて協同しようとする態度が身に付いてきていることが伺える。

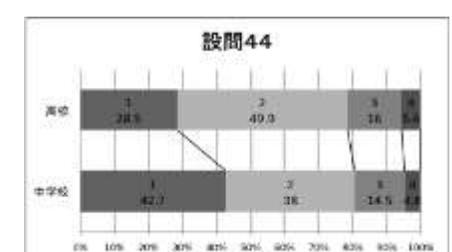
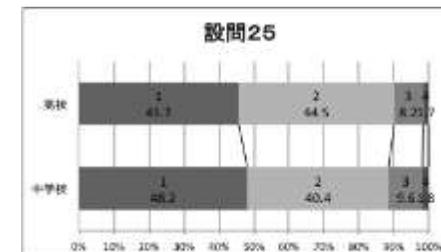
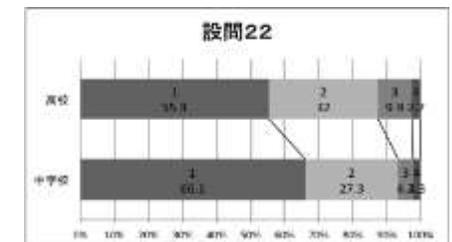
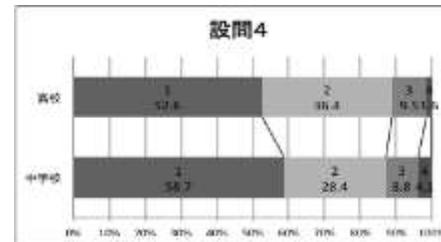
○設問4 「解決したいことを、書籍やインターネット等を使って調べることができる。」

○設問22 「自分の将来について考えることがある。」

○設問25 「異なる立場や考えを受け入れ、理解しようと思う。」

○設問44 「総合的な学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う。」

など



PISA2012調査報告書(PISA2012 Results:Creative Problem Solving – Students’ Skills in Tracking Real-Life Problems-)より

…日本はPISA2012調査において全ての教科でトップかトップに近い成績を収めているが、問題解決についても例外ではない。…この問題解決のスキルの育成は、教科と総合的な学習の両方において、クロスカリキュラムによる生徒主体の活動に生徒が参加することによって行われているものである。…カリキュラムと授業をより子どもの関心を引く学習に変えようとする日本の継続的な取組は、PISAの良い成績を生み出しただけでなく、2003年から2012年にかけての生徒の学校への帰属意識や学習の姿勢の顕著な改善という結果を生み出している。

OECD教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏インタビュー記事(H26.7.2読売新聞、服部真記者)

…学力の回復は総合学習の貢献が大きい。

「中等教育資料」平成26年5月号 OECD教育局長 アンドレアス・シュライヒャー氏寄稿

…日本では、従来から総合学習が行われています。日本の全国学力・学習状況調査によれば、総合学習が子供たちの意欲関心の向上に役立っているなど総合学習の様々な成果がみられたと聞いています。このような子供の自主的な活動に着目した学習の今後の発展を楽しみにしています。

総合的な学習の時間の在り方について(検討素案)

成果

- 総合的な学習の時間への取組が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成の両方につながっている 全国学力・学習状況調査の結果、先進校の取組事例より
- 総合的な学習の時間において育むべき力や学びの在り方をカリキュラム・マネジメントの核としながら、学校全体として探究的な学習を行う実践が進められている。 SGH、研究開発学校等

課題

- **各学校における指導方法の工夫改善や校内体制の整備等による格差解消**
一部の学校(特に中学校・高等学校)においては、「ねらいや育てたい力が不明確で、児童生徒自身が、何のために活動を行い、何を学んだか自覚できていない。」「補充学習のような専ら教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、運動会の準備など学校行事と混同された実践が行われたりしている。」といった事例が見られる。
- **総合的な学習の時間のカリキュラムの適切な編成・実施・評価・改善**
地域や生徒の実態等の現状を把握した上で、総合的な学習の時間の目標・内容の設定や、全体計画や年間指導計画の作成に適切に取り組めていない学校がある。また、実施状況の評価を改善に反映できていない学校がある。
- **学習成果の検証と社会的価値の発信**
総合的な学習の時間の重要性は認知されてきているが、そこではぐくまれる資質・能力や態度の具体的な検証や、それらの社会的価値に関する情報発信が不十分である。

◆各学校が総合的な学習の時間を通じて育むべき資質・能力の考え方を明らかにする

- 実社会・実生活の課題を探究的に学ぶことにより、教科等の文脈を越えて自ら課題を発見し解決する力や他者と協働する力などの汎用的な資質・能力を育て、それを実社会で活用できるようにすることを重視
- 主に育成する資質・能力や内容、指導方法の例示の体系化、高度化 の検討
- 育成する資質・能力や態度を支える、教科横断的に考える技法を体系的に指導

◆学校の教育活動全体における総合的な学習の時間の意義を改めて明確化する

- 各教科等を通じて身に付けた力を総合的に活用できるようにし、地域の課題や社会的要請に対応
(国際理解、情報、環境、福祉・健康や防災・安全、地方創生、創造的復興、ESDなど)

各学校の取組を支援する方策

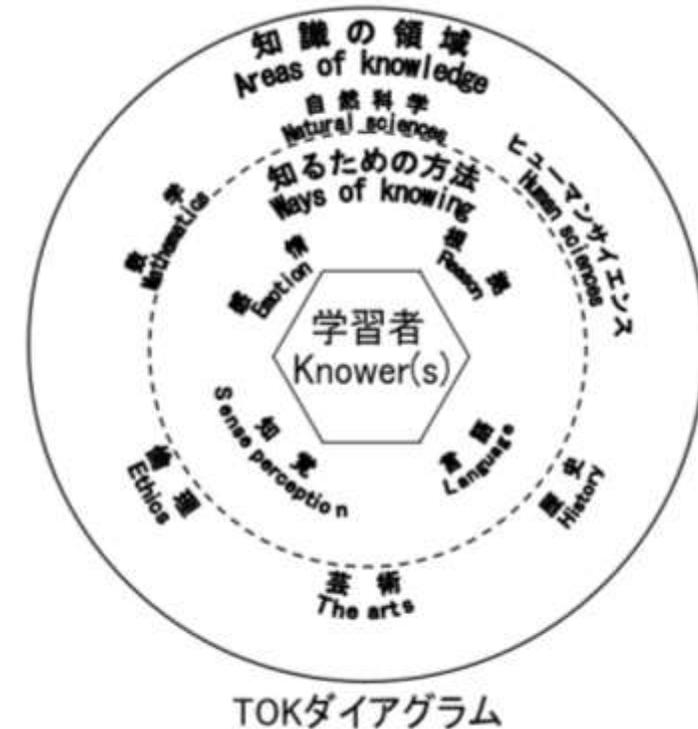
- 指導資料や指導方法に関する好事例の情報発信
- 総合的な学習の時間の推進校や推進地域の指定
- 中高生の社会参画の支援
 - 例: 中・高校生の社会参画に係る実践力育成のための調査研究～未来の主権者育成プログラム～
- 汎用的能力の成果測定及び開発
 - 例: 多様な学習成果の評価手法に関する調査研究、全国学力・学習状況調査等による検証

周知・普及

- 思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動の充実と見通し・振り返り学習活動の徹底
- 研修等の促進
 - ・探究と協同の授業を実現する指導力向上研修
 - ・管理職の意識改革研修
 - ・地域ごとのカリキュラムコーディネーターの配置とその育成 等

TOK(Theory of Knowledge) の学習目標

- ① 知識が示すもの、その前提にあるもの、背後にある意味などを批判的に分析する。
- ② 「学習者」としての生徒自身の経験や「知識の領域 (Areas of knowledge)」、「知るための方法 (Ways of knowing)」などの学習に基づいたKnowledge Issueに関連する質問、説明、推測、仮説、仮説への反論、可能性のある解決法を導き出す。
- ③ Knowledge Issueに対する様々な異なる考え方や認識について理解を示す。
- ④ Knowledge Issueへの様々なアプローチの仕方について関連付けや比較を行う。
- ⑤ Knowledge Issueへの取組に個人的に自覚を持って対応できる能力を身に付ける。
- ⑥ 学問的誠実さ、正確さに十分に配慮をしながらアイデアを練り、他者へはっきりと伝える。



TOK(Theory of Knowledge) について

DPプログラムを修了するためには、6つのグループ（第1言語、第2言語、個人と社会、実験化学、数学とコンピュータ科学、芸術又は選択科目）を学ぶほかに、必要となる要件の一つ。

学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を吟味して、理性的な考え方と客観的精神を養う。言語・文化・伝統の多様性を認識し国際理解を深めて、偏見や偏狭な考え方を正し、論理的思考力を育成する。

ESDとは

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

(日本ユネスコ国際委員会)

国立教育政策研究所が提案する、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例

- ① 批判的に考える力
 - ② 未来像を予測して計画を立てる力
 - ③ 多面的, 総合的に考える力
 - ④ コミュニケーションを行う力
 - ⑤ 他社と協力する態度
 - ⑥ つながりを尊重する態度
 - ⑦ 進んで参加する態度
- など



特別活動

高等学校 特別活動に関する経緯等について

<学習指導要領以前の成り立ち>

- 明治時代後期から、各学校では、修学旅行や運動会などの学校行事が独自に企画され、その教育的な意義が認められていた。また、部活動の設置とともに学校内の自治会的な活動も盛んになっていった。
- 1947年(昭和22年)の学習指導要領試案では、「自由研究」という教科が設置され、通常の教科で学習したことを有機的に発展させて学ぶ時間として想定された。
- この教科「自由研究」が現代の特別活動の原型になったといわれている。しかし、教科「自由研究」については、理解が進まず、また現場における適切な実施も困難であったため、1948年(昭和23年)の学習指導要領の改正時に廃止され、小学校では「教科以外の活動」に、中学校では「特別教育活動」に再編された。

○ 昭和33年改訂(告示)

小学校・中学校・高等学校を通じて「特別教育活動」(「生徒活動」「学校行事」「学級指導」)に名称を統一。(ただし、特別教育活動には、学校行事が含まれていなかった)。

高等学校における「特別教育活動」の目標は「生徒の自発的な活動を通して、個性の伸長を図り、民主的な生活のあり方を身につけさせ、人間としての望ましい態度を養う」と掲げられた。

○ 昭和43～45年改訂

それまで包括されなかった学校行事を統合し、名称を「特別活動」に変更。「クラブ活動」は全員必修。

○ 昭和52年・53年改訂

「勤労にかかわる体験的な学習の機会を出来るだけ取り入れること」が記された。

○ 平成元年改訂

中学校・高等学校は「ホームルーム活動」「生徒会活動」「クラブ活動」「学校行事」に分けられ、「クラブ活動」は部活動による代替が認められるようになった。

○ 平成10年・11年改訂

中学校・高等学校の特別活動から「クラブ活動(部活動)」が削除された。

- 平成20年・21年改訂においては、特別活動で育成したい資質や能力の明示、全体目標に「人間関係」を加えた。また、各活動、学校行事の目標を新たに規定した(よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度を特に重視)

- 加えて、適切な指導計画の作成と資質や能力を育成するための諸活動の充実(生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動の一層の充実、体験活動の推進)を掲げた。

高等学校 特別活動について

目 標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、**集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。**

内 容

ホームルーム活動

目標：**望ましい人間関係の形成**。集団の一員として学校におけるよりよい生活づくりに参画、**諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度の育成。**

内容：学級づくりの活動、コミュニケーション能力の育成、望ましい勤労観、職業観の確立など

生徒会活動

目標：**望ましい人間関係の形成**。協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度の育成。

内容：生徒会の計画や運営、異年齢集団による交流など

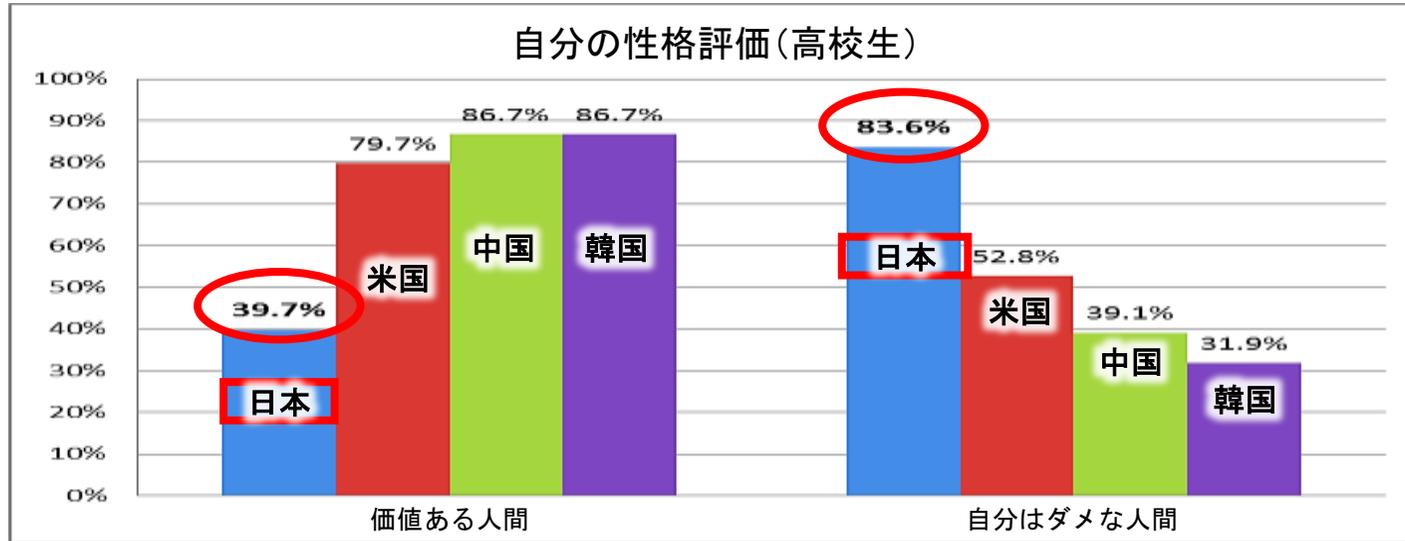
学校行事

目標：**望ましい人間関係の形成**。集団への所属感や連帯感を深め、**公共の精神を養い、よりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度の育成。**

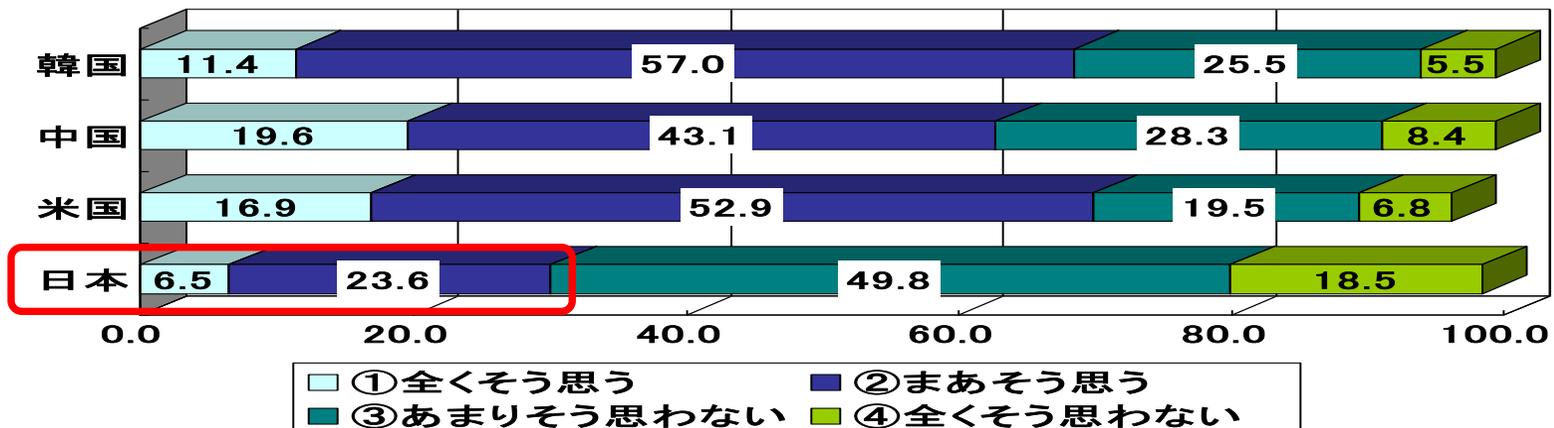
内容：儀式的行事（入学式、卒業式など）、文化的行事（文化祭など）、健康安全・体育的行事（体育祭など）、集団・宿泊的行事（修学旅行など）、勤労生産・奉仕的行事（インターシップ、ボランティア活動など）

高校生の自己肯定感、社会参画に関する意識

◆米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は、「自分を価値ある人間だ」という自尊心を持っている割合が半分以下、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。



問:私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない

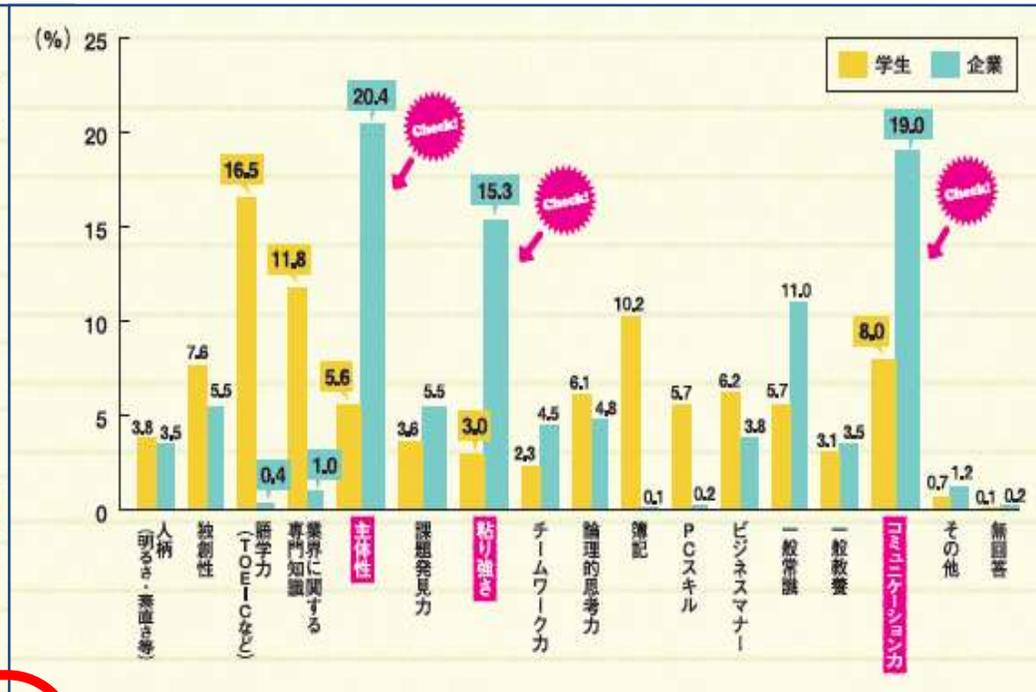
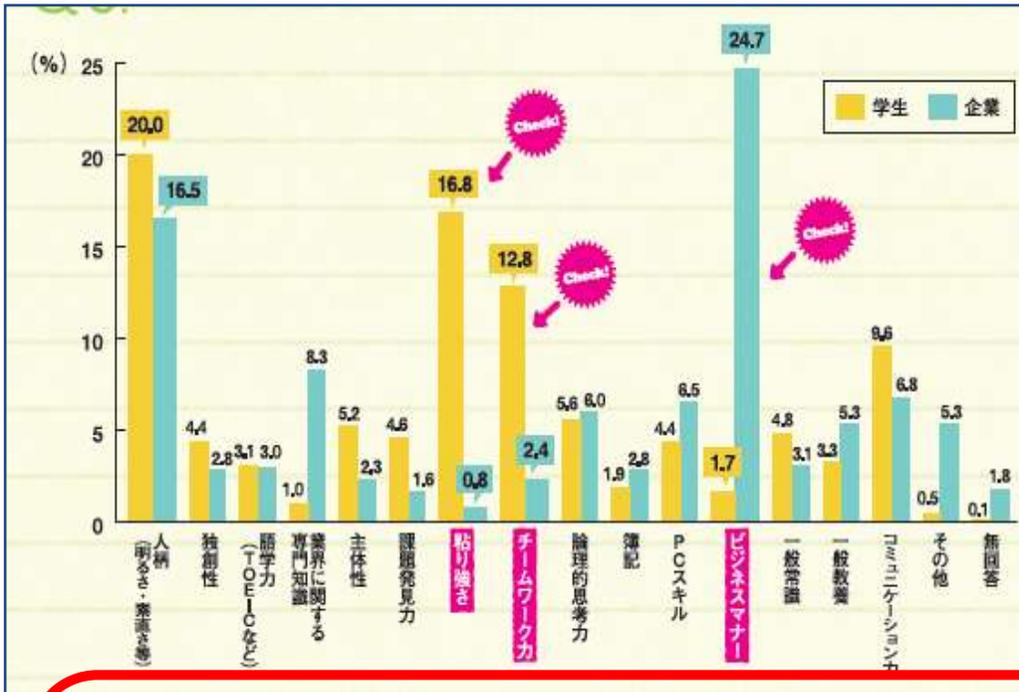


(出典)(財)一ツ橋文芸教育振興協会、(財)日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識 -日本・アメリカ・中国・韓国の比較-(2009年2月)」より文部科学省作成

学生と企業の意識のズレに関する現状

Q. 自分が既に身につけていると思う能力は？（对学生）
 学生が既に身につけていると思う能力は？（対企業）

Q. 自分に不足していると思う能力は？（对学生）
 学生に不足していると思う能力は？（対企業）



(経済産業省「大学生の『社会人観』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査」平成21年)

粘り強さ

チームワーク力

主体性

コミュニケーション力



(学生の認識)
 「十分出来ている」
 (企業の認識)
 「まだまだ足りない」

ビジネスマナー

語学力

業界の専門知識

PCスキル

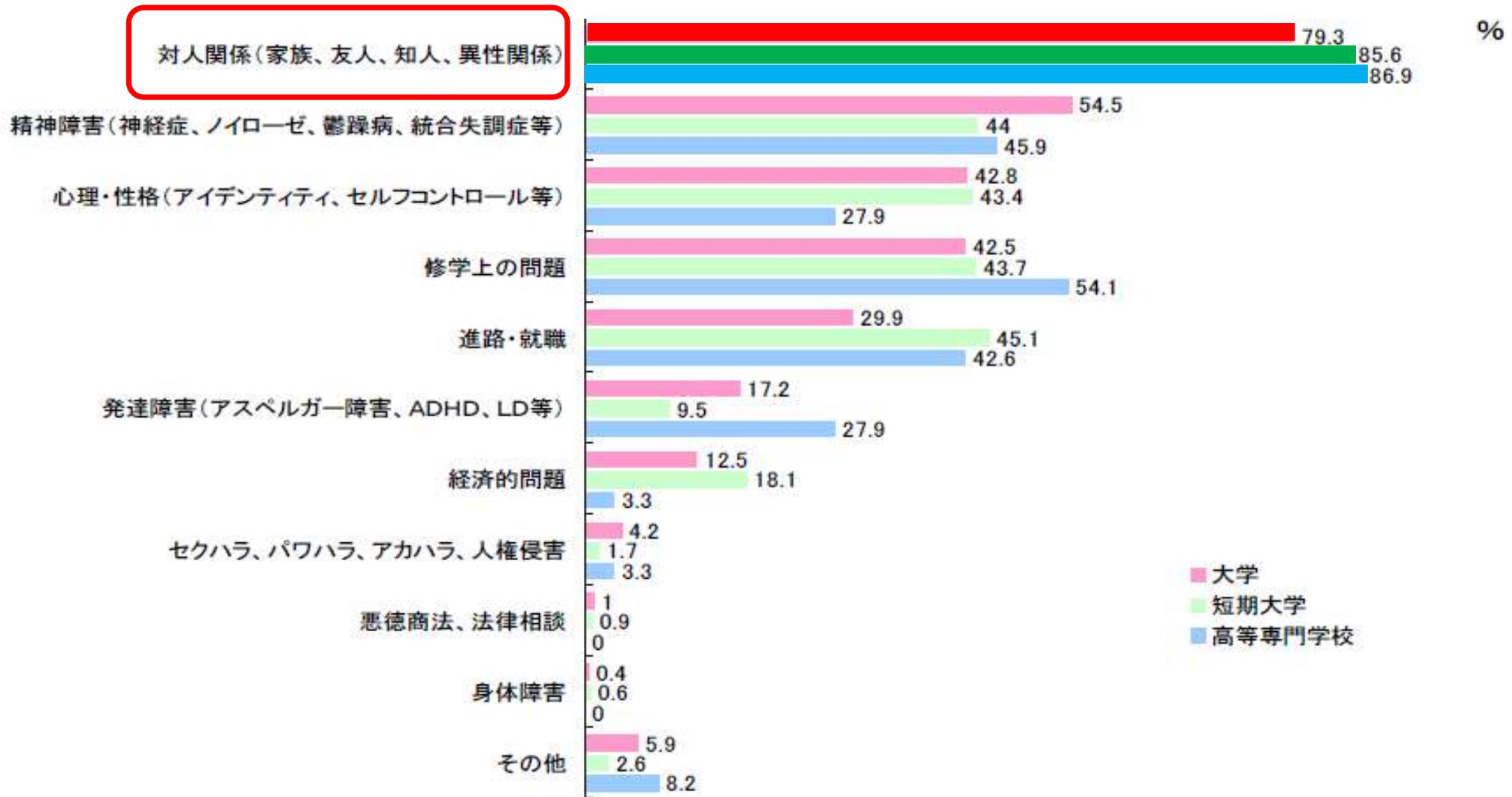


(学生の認識)
 「まだまだ足りない」
 (企業の認識)
 「出来ている (これから
 で良い)」

「チームワーク」「主体性」「コミュニケーション能力」について学生は「十分できている」と考えているが、企業側は「まだまだ足りない」と評価しており、大きなズレがある。

若者の「人間関係」についての現状

大学生などの悩み(学生相談窓口が受け付けた相談内容)



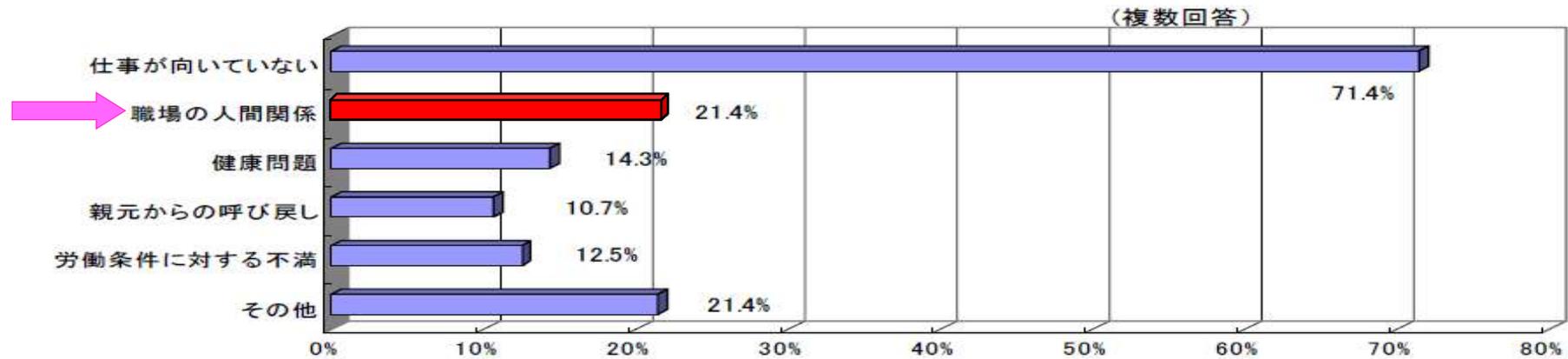
(出典) 日本学生支援機構「大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査」(平成20年度)

若者の「人間関係」についての現状

新規高卒離職者の離職理由

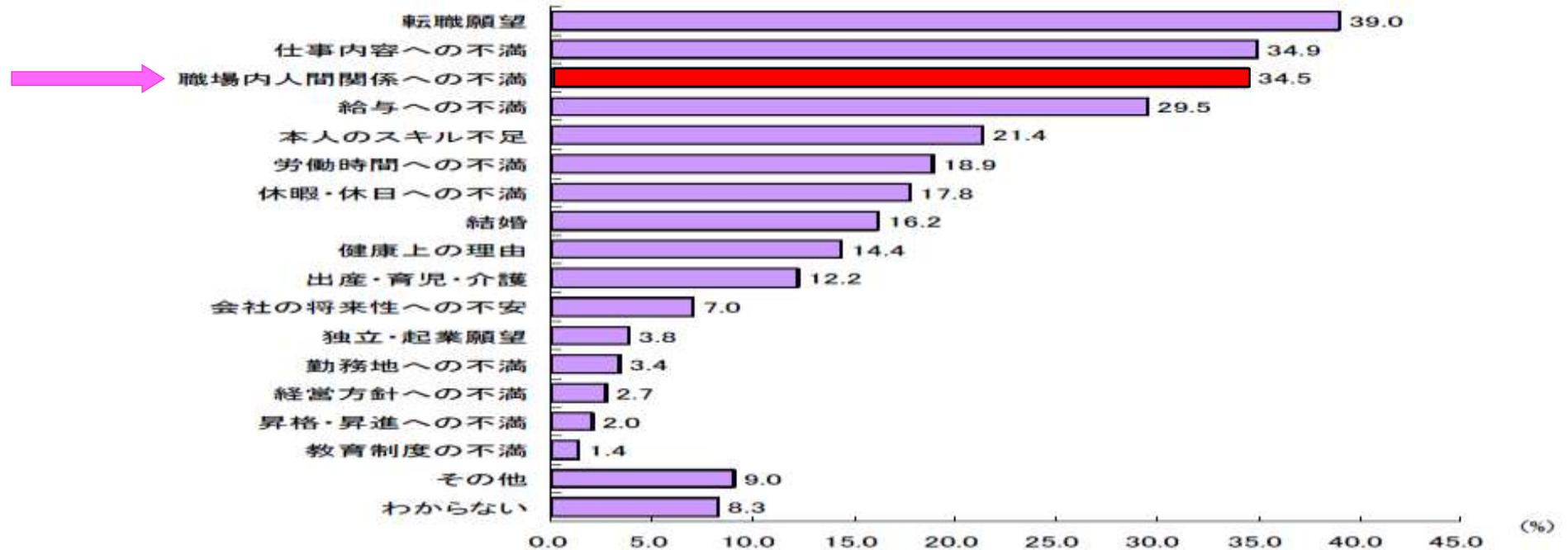
東京経営者協会による調査(平成21年2月)

n=56



企業が考える若年早期離職者の離職理由

三重県商工会議所連合会による調査(平成20年1月)



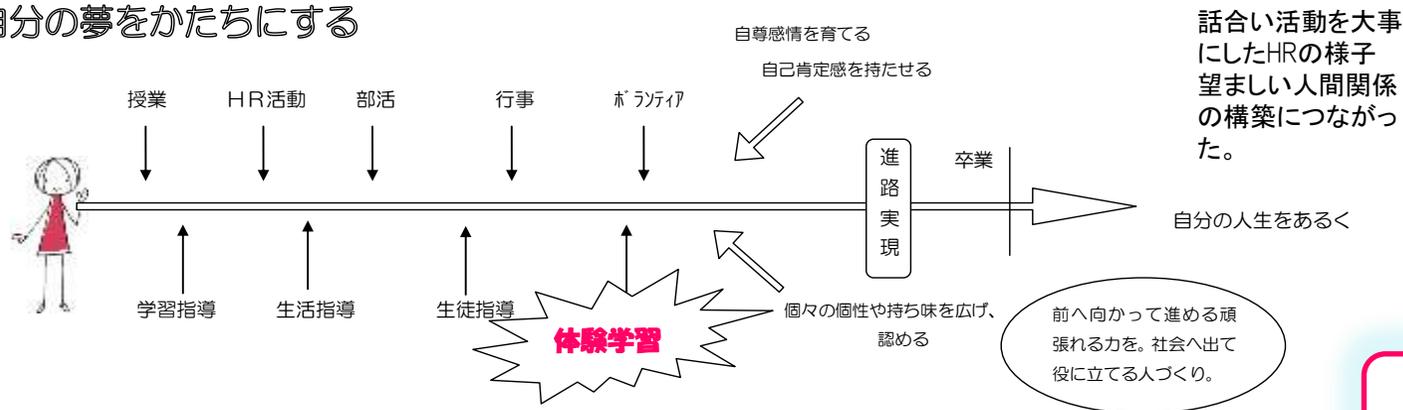
特別活動に関する現状（事例）

事例1 A高等学校

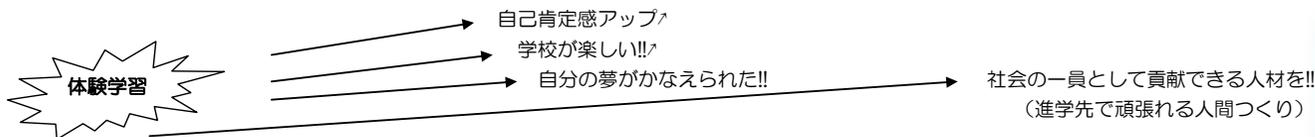
A高等学校は、多様な課題を抱え、成功体験に乏しい生徒の実態から、高校生活に意義を見出せずに転退学する生徒が後を絶たない状況にあった。そういった状況を踏まえ、体験活動を重視し、生徒の自主的・実践的活動を通して、自尊感情を高め、自分のことを好きだと思える「自己肯定感」、学校生活を楽しく過ごす・意義を見出させる「充実感」を目指す特別活動の充実に取り組んだ。また、夢を持たせ、それに向かって前向きに取り組む「将来志向」を高め、社会の一員として貢献できる、社会参画できる人材作り「在り方生き方」の指導計画を体系化して特別活動の研究に当たった。

現在、研究指定の2年目となるが、「自己肯定感」、「充実感」、「将来志向」のいずれについても生徒アンケートの結果、望ましい変容が見られている。また、教職員が「育てたい生徒像」をチームとなって描き、共有、協働することで学校教育全体の改善につながっている。加えて、民間企業や地域などの関係機関との連携も進んでいる。

自分の夢をかたちにする



つまり、この研究は、体験学習を中心としたキャリア教育を手段として・・・



自尊感情を高め、自分のことが好きだと思える
「自己肯定感」

学校生活を楽しく過ごす、意義を見出させる
「充実感」

夢を持たせ、それに向かって前向きに取り組む
「将来志向」

キーワード：自己肯定感（自尊感情UP）、充実感（高校生活における意義）、将来志向（夢をかたちに）

特別活動に関する現状（事例）

事例1 A高等学校

調査時期

事前アンケート：7月17日

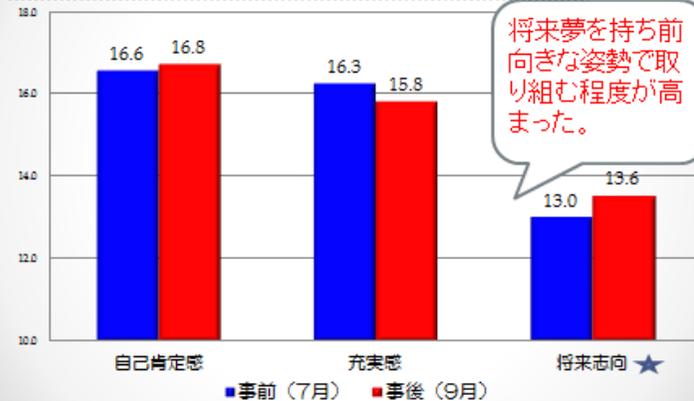
事後アンケート：9月3日

有効回収率

事前アンケート：96.5%

事後アンケート：94.9%

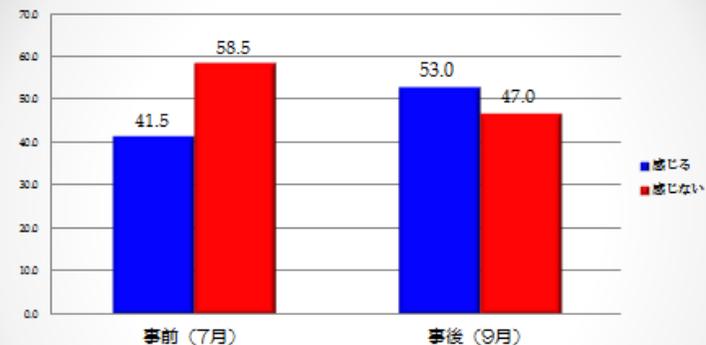
生徒の意識の変化① （自己肯定感・充実感・将来志向）



生徒の意識の変化② （夢の有無、具体的な進路 他）

- ①夢の有無
- ②具体的な進路
- ③学びによる社会と自分とのつながり
- ④情報収集
- ⑤学習の意義の変化

社会とのつながりの変化 ★



「学びによる社会と自分とのつながり」を感じる生徒の割合 41.5% → 53.0%

特別活動に関する現状（事例）

事例2 B高等学校

B高等学校は、湾まで700M、海拔4.2M、南海地震による襲来する津波は想定5M～10Mという立地にあり、津波から「自分と地域住民の命を守る」という不断の準備が求められる。この状況を受け、生徒会の保健委員会を中核とした「防災・減災プロジェクト」が立ち上がり、地域ボランティア活動に取り組んだ。その活動と成果を受けて、学校全体、特に特別活動を中心に防災教育を推進することとなる。

具体的には、防災オリエンテーション(1年)、防災学習日や防災講話の設定、特に防災ホームルームでは1年生が「地震に備えて～自宅での避難行動の確認と防災袋の作成～」、2年生が「地域の高校生として～二次災害に備えよう～」、3年生が「災害発生時に必要とされるもの・ことを考える～高校生として避難生活でできること～」をテーマに話し合い活動を展開し、自らの備えや行動を自己決定、集団決定している。

また、地域の保育園との連携や中学校との合同避難訓練など異年齢集団との取組が生徒の自己有用感を高め、よりより集団づくりへの意欲につなげてもいる。

これらの取組から以下のような生徒の変容を教職員は実感している。

- 受身の活動から主体的・自主的な活動へ
- 自助から共助へ意識が変化
- 自尊感情の高まり(学習以外での自信)
- 小・中学生への指導を通してリーダーとしての自覚の促進
- 内面の変化による学校生活面の改善



高校生による保育園での出前授業



中・高合同避難訓練

全国の成果(学校文化・地域文化の創造に寄与)

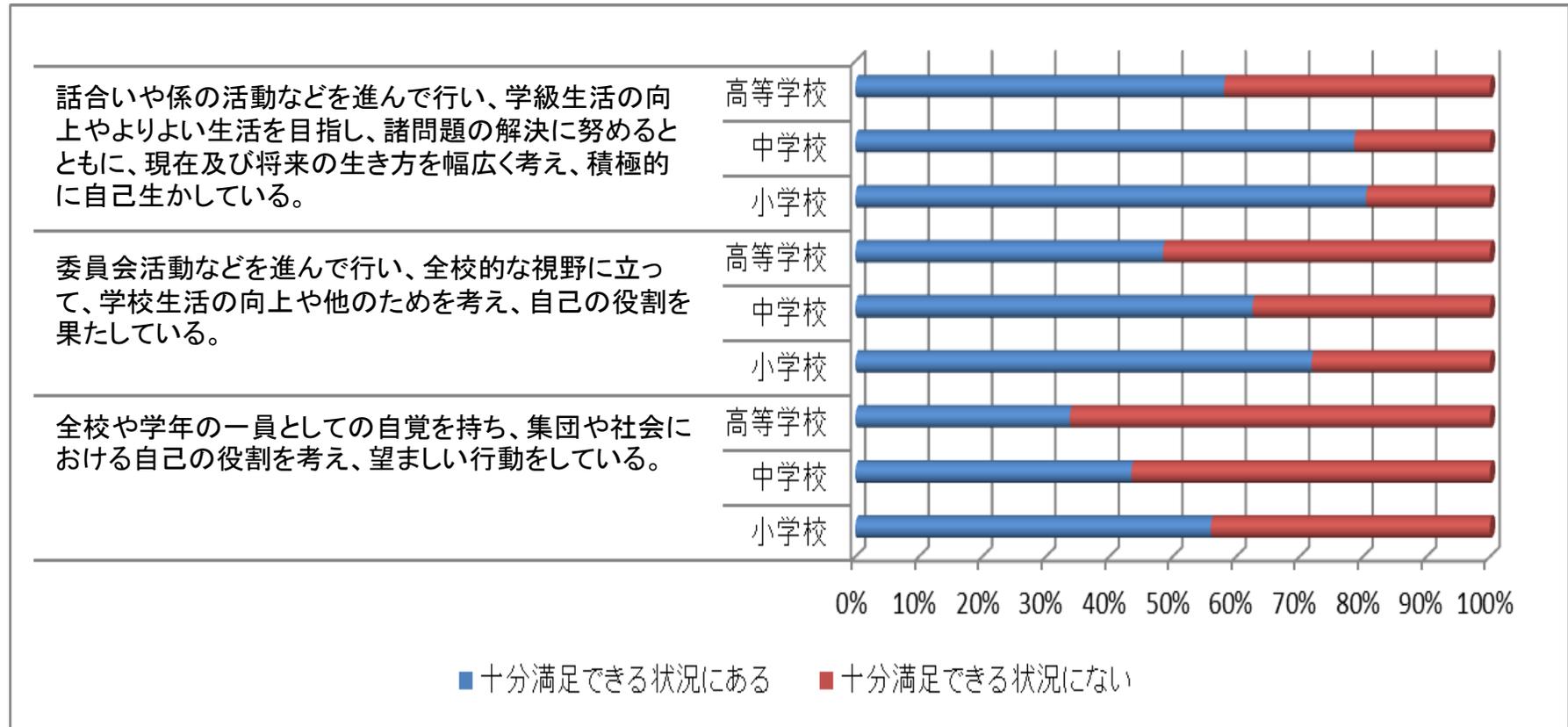
- 学校行事においては、各校において創意工夫に満ちた取組が進められており、「文化祭」、「体育祭」、「修学旅行」やボランティア活動などでは学校独自の文化を創り出している。その基盤には生徒会の協力など、生徒の声を生かした学校行事の運営がある。また、地域や学校間の連携により地域文化の創造に寄与している学校行事も多い。
- 生徒会活動においては、多くの学校で生徒が自治を実感し、社会参画を学ぶ絶好の機会となっている。
- ホームルーム活動では、学校行事や生徒会活動と結びつけながらよりよいクラスづくりや人間関係の形成に大きな成果が見られるとともに、在り方・生き方を考える「進路指導」の核として多くの学校では活かされている。

特別活動の実施状況

学年別の実施状況（平成16年度特別活動実施状況調査）

校種	学級活動・ホームルーム年間実施時数
小学校(第5学年)	38.8
中学校(第1学年)	41.2
高等学校(第1学年)	33.7

小中学校との比較で見ると、ホームルーム実施時数や特別活動の目標到達度には課題がある



特別活動に関する現状・課題に関するデータ①

高校普通科のキャリア教育における変容調査より

○ 社会が求める力(基礎的・汎用的能力)の変容

ホームルーム活動における在り方生き方を考えさせる時数の多寡が基礎的・汎用的能力の変容に大きな影響を与える。

図表 3-4-4 時間の多寡と人間関係形成・社会形成能力



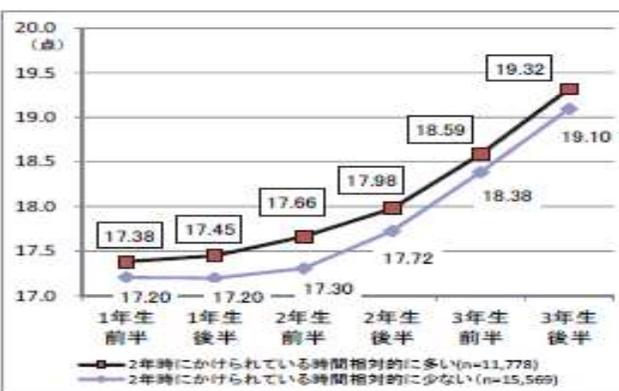
図表 3-4-5 時間の多寡と自己理解・自己管理能力



図表 3-4-6 時間の多寡と課題対応能力



図表 3-4-7 時間の多寡とキャリアプランニング能力



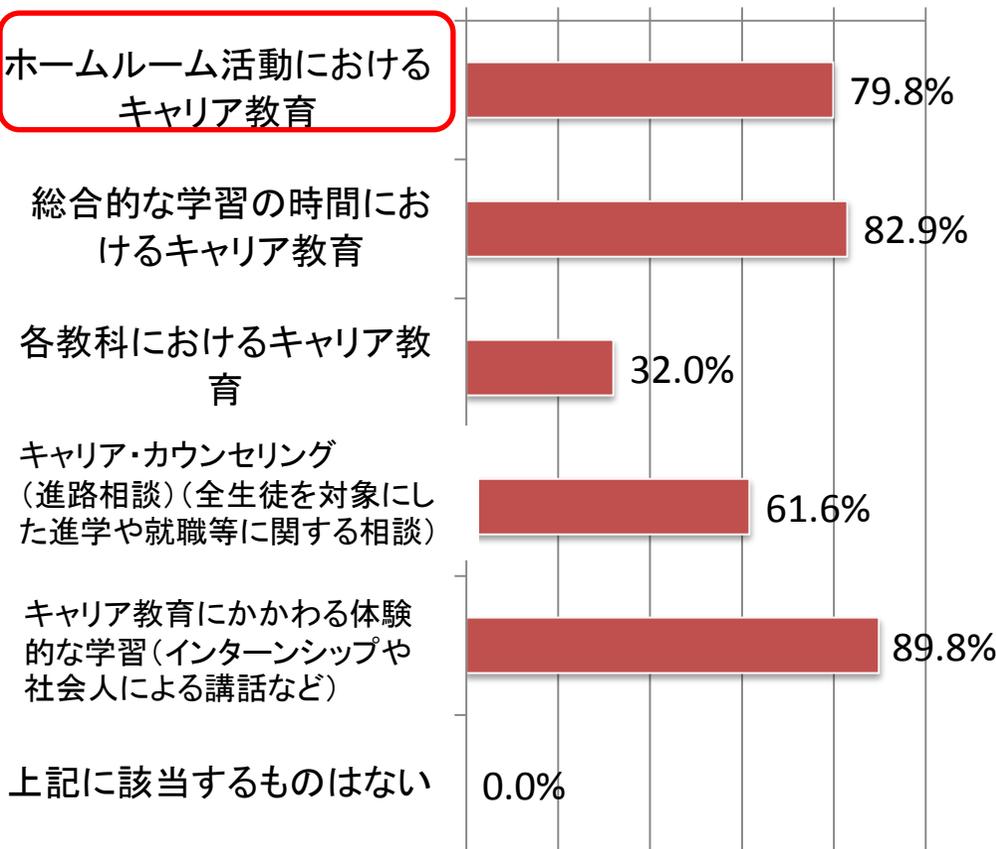
特別活動に関する現状・課題に関するデータ②

キャリア教育・進路指導に関する総合的な実態調査より

○ キャリア教育・進路指導に充てられる時間
在り方生き方を考える進路指導においてホーム
ルームは核となっている。

○ ホームルーム担任の意識と学習意欲
担任が課題対応能力やキャリアプランニ
ング能力に重点を置きながらホームルーム活動を
指導することにより、生徒の学習意欲の喚起に
結びつく。

0.0%20.0%40.0%60.0%80.0%100.0%



	モデル1		モデル2		モデル3	
	B	Exp(B)	B	Exp(B)	B	Exp(B)
(切片)	-2.482	0.084 ***	-5.564	0.004 ***	-6.322	0.002 ***
学科<普通科>						
専門学科	0.137	1.147	0.075	1.078	0.134	1.143
総合学科	-0.150	0.861	-0.127	0.881	-0.126	0.881
計画を立てる上で重視したことが						
生徒の実態や学校の特徴、地域の実態を把握し計画に反映させること	-0.101	0.903	-0.109	0.897	-0.135	0.873
生徒が、学年末や卒業時まで「〇〇ができるようになる」など、具体的な目標を立てること	0.009	1.009	-0.002	0.998	-0.031	0.970
進達の段階に応じたキャリア教育の実践が行われるようにすること	0.183	1.201	0.145	1.156	0.134	1.143
貴校のキャリア教育で育てる力と基礎的・汎用的能力との関連を整理すること	0.372	1.451 **	0.361	1.435 **	0.351	1.421 *
様々な教科や領域・行事等、教育課程全体を通してキャリア教育が行われるようにすること	0.198	1.219	0.177	1.193	0.152	1.164
現在の学びと将来の進路との関連を生徒に意識づけること	0.440	1.552 **	0.410	1.507 **	0.390	1.478 *
取組の改善につながる評価を実施すること	0.293	1.341 †	0.274	1.315 †	0.275	1.317 †
就業体験(インターンシップ)や社会人による講話など、職業や就労にかかわる体験活動を充実させること	0.060	1.062	0.035	1.035	0.060	1.062
大学等の体験入学や学校紹介など、上級学校にかかわる体験活動を取り入れること	0.306	1.358 †	0.264	1.303 †	0.235	1.264
就業体験(インターンシップ)などの体験活動において、事前指導・事後指導を重視すること	-0.060	0.942	-0.029	0.929	0.014	1.014
保護者や地域、外部団体との連携を図ること	-0.179	0.836	-0.173	0.841	-0.188	0.829
個人資料に基づき生徒理解を深めることや生徒に正しい自己理解を導くこと	0.291	1.338 †	0.273	1.314 *	0.252	1.287 †
生徒に進路に関する情報を得させる活動を取り入れること	0.003	1.003	0.021	1.021	-0.003	0.997
キャリア・カウンセリング(進路相談)を取り入れること	0.074	1.076	0.067	1.070	0.089	1.093
具体的な進路(就職先や進学先等)の選択や決定に関する指導・援助を行うこと	0.217	1.242	0.232	1.262	0.243	1.275
卒業生への進路指導を行うこと	-0.316	0.729	-0.290	0.748	-0.293	0.746
ホームルームで担任が重点をおいている指導 [※]						
人間関係形成・社会形成能力			-0.010	0.990	-0.008	0.992
自己理解・自己管理能力			0.036	1.036	0.040	1.041
課題対応能力			0.122	1.130 *	0.123	1.131 *
キャリアプランニング能力			0.163	1.177 **	0.164	1.178 **
上級学校や職場に関すること			0.014	1.015	0.012	1.012
「基礎的・汎用的能力」に関する指導内容・実施学年						
「人間関係形成・社会形成能力」の育成に関する授業・指導・1年					0.528	1.695 †
「人間関係形成・社会形成能力」の育成に関する授業・指導・2年					-0.161	0.851
「人間関係形成・社会形成能力」の育成に関する授業・指導・3年					-0.290	0.748
「自己理解・自己管理能力」の育成に関する授業・指導・1年					0.114	1.121
「自己理解・自己管理能力」の育成に関する授業・指導・2年					0.036	1.037
「自己理解・自己管理能力」の育成に関する授業・指導・3年					0.132	1.141
「課題対応能力」の育成に関する授業・指導・1年					-0.063	0.939
「課題対応能力」の育成に関する授業・指導・2年					0.312	1.366 †
「課題対応能力」の育成に関する授業・指導・3年					-0.059	0.942
「キャリアプランニング能力」の育成に関する授業・指導・1年					0.032	1.032
「キャリアプランニング能力」の育成に関する授業・指導・2年					0.433	1.542 *
「キャリアプランニング能力」の育成に関する授業・指導・3年					-0.133	0.875
サンプル数	1890		1890		1890	
-2 Log Likelihood	1845.446		1792.454		1772.821	
χ ²	78.244		131.865		151.499	
Cox-Snell R ²	0.041		0.067		0.077	
Nagelkerke Pseudo R ²	0.064		0.106		0.121	

注：***,p<.001, **,p<.01, *,p<.05, †,p<.10, ()内はリファレンス・グループを示す。
※：担任調査の間「あなたのホームルームでキャリア教育を行う上で、特にどのようなことに重点をおいて指導していますか」と尋ねた15項目を、基礎的・汎用的能力として整理されている「人間関係形成・社会関係形成能力(項目(1)~(3))」「自己理解・自己管理能力(項目(4)~(6))」「課題対応能力(項目(7)~(9))」「キャリアプランニング能力(項目(10)~(12))」および「上級学校や職場に関すること(項目(13)~(15))」の5つのカテゴリーに分類した。

特別活動に関する現状・課題に関するデータ③

学校教育の評価と人材育成の課題より

区分	項目	小学校	中学校	高校	大学	企業
		意識して教育している比率				
規律	社会のルールや人との約束を守る	95.7%	91.9%	89.7%	78.5%	6.1%
意欲	学ぶことに対して意欲的である	95.7%	88.7%	85.3%	77.6%	8.5%
	将来働くことに対して意欲・関心を持っている	80.4%	96.8%	94.1%	85.0%	11.0%
	将来の夢や目標を持っている	89.1%	93.5%	88.2%	80.4%	18.3%
	社会や地域で起こっていることについて関心を持っている	69.6%	79.0%	63.2%	72.1%	24.4%
基本行動	物事に進んで取り組む	95.7%	91.9%	82.4%	79.8%	19.5%
	目的を設定し確実に実行する	87.0%	90.3%	85.3%	80.4%	19.5%
	自分なりに考える	93.5%	82.3%	80.9%	78.5%	---
	自分の意見を分かり易く伝える	95.7%	91.9%	77.9%	84.7%	15.9%
	相手の話を丁寧に聞く	95.7%	88.7%	82.4%	75.2%	11.0%
チーム行動	他人に働きかけ巻き込む	63.0%	67.7%	38.2%	57.7%	45.1%
	意見の違いや立場の違いを理解する	89.1%	82.3%	75.0%	67.5%	17.1%
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する	60.9%	66.1%	61.8%	65.0%	17.1%
プロセスデザイン	現状を分析し目的や課題を明らかにする	71.7%	79.0%	60.3%	77.6%	34.1%
	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する	71.7%	74.2%	55.9%	74.2%	42.7%
その他	ストレスの発生源に対応する	39.1%	54.8%	32.4%	44.2%	31.7%

学校教育が再確認すべきは、「チーム行動する力」や「自らシナリオを描く経験」、また「社会や地域に関心を向ける機会」が極めて重要であること。 ⇒ 特別活動の重要性

特別活動の在り方について（検討素案）

<現状>

- 体育祭をはじめとする学校行事が、各地で学校文化・地域文化の創造に結びついている
- よりよい人間関係を築くこと、自己を生かす能力を養うことの必要性は今後ますます高まると思われる

<課題として考えられる点>

● ホームルーム活動

授業実施時数については改善傾向にあるものの課題の範囲は脱していない。
(参考:実施時数)また、合意形成にむけた話し合い活動が日常化されていない課題も残る。

● 生徒会活動

生徒会活動の正しい理解が生徒のみならず
教員においても十分でない場合がある。
(生徒会とは生徒会役員の活動のことである
という誤解)

● 学校行事

生徒の意欲を尊重しすぎたり、伝統の継承や発展に重きを置きすぎたりするあまり、学校行事が生徒にとって過重負担になっている場合がある。

- 二つの活動と学校行事が、学校全体の取組とならず、担当者任せになっていないか点検の必要がある。

◆特別活動で身につけさせたい資質・能力の明確化

- 特別活動において身に付けさせたい、現在及び将来の生活につながる資質・能力を再確認する。
- 積極的な社会参画につながる合意形成にむけた活動(話し合い活動など)の重要性を確認する。

◆教育課程全体における特別活動の意義の明確化

※公民科における新科目の在り方との連携も必要

- 特別活動を通じた、望ましい学級集団の形成が、教育課程全体における「主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)」を推進する基礎を作るものであることの強調
- 各教科で学んだことを、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事を通じて、自分自身や学級の実生活に直結させる場であることの強調 (例:ボランティア、防災の実践等)
- 特別活動の目標や成果から学校全体、特に教務部が関わり指導体制を確立することの重要性を明確化